議長／皆さんおはようございます。
休会前に引き続き本日の会議を開きます。
日程に基づき、市政事務に対する一般質問を始めます。
一般質問は、10 名の議員から 34 項目について通告がなされております。
質問の方法、時間につきましては、議会運営委員長の報告のとおりでございます。
議事の進行につきましては、特に御協力をお願いいたします。
また、執行部の答弁につきましても、簡潔でかつ的確な答弁をお願いいたします。
それでは、最初に 18 番牟田議員の質問を許可いたします。
御登壇を求めます。
18 番　牟田議員

牟田議員／議長より登壇の許可をいただきました。
まず最初に、私の同郷で、同僚議員である松尾陽輔議員さん、急逝（？）なさいました。
心より残念に思いますし、心より御冥福をお祈りいたします。
松尾陽輔議員さんとは、最後に会ったのは、若木町眉山キャンプ場開きでした。
亡くなるちょうど２週間前。
そのときは、普通にお元気に話して、キャンプ場開きが始まる前に外で話し、キャンプ場開きのときは、きちんと挨拶もされ、終わった後もキャンプ場のことに関して話して、そして、お別れして、２週間後、こういうお別れになりました。
本当に残念に思います。
心より御冥福をお祈りいたします。
さて、その眉山キャンプ場も後で質問項目の中に入れております。
今日は９月８日。
９月８日は、ちょうど若木バイパスの開通の日でした。
この日の、何年前でしたっけ、この日に若木バイパスが開通し、４９８号線を使う交通体系が大きく前進いたしました。
また、その隣にある瓦礫の山を、いろんな各地の自治体の職員さんが、瓦礫の撤去に来ていただいた日でもありました。
この９月８日、いろんな思いを考えながら質問をさせていただきます。
では、まず最初に、交通行政について。
１番目。
２つ画像を載せていますけれども、６月議会で先般お伺いしました。
信号機に、これ中山議員さんも山内町のほうで同じように質問されました。
これは私もしましたし、中山議員さんも質問をされましたということかもしれませんけれど

も、議会が終わった後で、今まで以上に、普通以上に、この件について多くの人から、ひょっとすると、中山議員さんも、ああよかねって、してもらわんぎいかんねって多くの人から言われたかもしれません。
私自身も、ここばこんなこと（？）つけてくるぎ（？）助かるよというのを、今までの質問の後以上に、本当に多くの方々から、これ早うしてくれと。
信号が変わる、こっち側の信号が変わる、でも、向こうは青。
来るかもしれないということで、なかなかですね、何台かはロスしてします。
朝の渋滞。
夕方の渋滞というのは、そんなにないかもしれませんけれども、朝の通勤時間帯では、本当は２回待てばいいのが、３回、４回となってしまう。
これは本当に、朝通勤されている方においては、ぜひ必要だということで多くの人たちから言われました。
そういうことで、この信号体系、どのように進んでいるのか。
前回の答弁では、検討し、要望をしたいと思いますということなんですけども、まず最初に、その質問から行いたいと思います。
よろしくお願いします。

議長／野口まちづくり部長

野口まちづくり部長／おはようございます。
今回、御指摘の交差点につきましては、現在、現場を調査確認中であり、関係する地元と協力し、武雄警察署に矢印信号の設置を要望していきたいと考えております。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／調査し、地元と協議する。
本当に早くやっていただきたい。
それともう一つ、武雄市にはいろんな交通何々会議とつく名前の会議がいっぱいあります。
そういう中でも、ぜひ取り上げていって、この交通渋滞、朝の、朝っていうのは多分ですね、特にイライラするときがあると思うんですね、行けばいいのにと。
向こうは赤なのに、こっちはなぜ行かないと。
行かないときありますよね、前から来ていて、こっちは赤って分からないのに、右折はできないですから。
武雄市には交通という名のつく会議がいっぱいあると思います。

交通安全協会しかり。
ぜひ、そこで早めに取り上げていただいて、地元以外の人が結構使われていますんで、そういうところをやっていただきたい。
特に、前回、質問のときでも出しました。
今からちょっと出す、前回とほぼ一緒なんですけど、一番質問の後に言われたとこです。
山内町は、中山議員さんがちゃんと出されましたんで。
山内町のほうは、私はあまり言われてなかったんですね。
まず最初に、朝日町川上の交差点ですね。
右折のレーンもちゃんとあるところです。
こっち側が来るときが赤になっていても、右折するときに、赤になったのが分からないからここで待ってるんですね。
今ちょうど車が待っている状態と同じ。
それが何台か行かれない。
次、これは小楠の交差点。
これ繰り返しになりますけど、川良という武雄市で一番多い世帯数を抱えているところ。
小楠という多い世帯。
そして、各町から、赤穂山トンネル、山内の川上方面、いろんなとこから集中するところですね。
右折ができなくって、右折レーンからはみ出して直進レーンまで進めない。
そういう事態も多々、多々あっております。
ぜひこういうところ。
これ、すみません、私の言われたところですね、質問のときにも言いまして、質問後に言われたところの代表的３つ。
３つ目は、永島の交差点。
ここから行けば、ハイツさんとか、森のリゾートさん、ゆめタウンのほう、白岩体育館のほうですね。
ここのところも右折レーンはちゃんとあります。
でも、信号が赤に変わったというのは、反対側が赤に変わったのは分からない。
だから、ここで待たなきゃいけない。
これは武雄市に流入してくるほう、右折する人にとっては、本当にこういうのをつけていただきたい、つけてくれという要望を前も受けましたし、この質問が終わってからも、見たよって、聞いたよと、こういうところを早く何とかしてほしいと、特に朝はひどいからということで言われました。
今、代表的な３つ。

ぜひ、先ほど言いました、まちづくり部、そして、交通という名のつく交通安全協会をはじめとする会議でも取り上げて、要望を進めていっていただければと思います。
ぜひ、よろしくお願いいたします。
では、続き、ごめんなさい、もういっちょあった。
これちょっと戻しますね。
ドライブレコーダー、これも２年半前に、ドライブレコーダーの設置を、市役所の全車種につけるべきではないかと。
これは、一つは、事故が起きたときの検証にもなるっていうのもありますけども、防犯なんですね。
これ、さっき９月８日という言葉を使いましたけれども、９月８日、５年前だったかな、６年前か、６年前の９月８日は大津の保育園の児童の列に車が突っ込んで全国的にニュースになった日でもあります。
そういうのも、ドラレコがついていたらきちんと検証ができる。
ひょっとすると、池袋暴走事件といわれている、あれもドラレコがあったら分かった。
早めに分かるかもしれない。
例えば全車つける、武雄市内に、この車がうろうろしている、仕事でうろうろしている。
何か事件があったときに、このドライブレコーダーを検証して事件を解決する。
万が一、例えば誘拐、子供たちに何かあったときも、その前後、その近くを通っているのに、ひょっとするとその解決の糸口の画像が映っているかもしれない。
ドライブレコーダーは本当に、こういう形で役に立ちますし。
もう一つ、これは、前、古川盛義議員さんも指摘されました。
山口昌宏議員さんも指摘されたと思うんですけれども、約 300 人ぐらいの市の職員さんにとって、あまりにも事故が多すぎる、同じ規模の企業に比べたら事故が多すぎるということで指摘もありました。
私もそうだと思いますし、少なからずの議員もそう思っていると思います。
そういう中で、このドラレコをつけたら、きちんとまたそれも検証もできるし、きちんと自分のほうの身の安全もできると思います。
ぜひこのドラレコ、全車設置のほうを目指していただきたい。
今、少なからずつけているとも聞きましたけれども、再度、ここで目標をどうされるのかというのをお伺いします。

議長／山﨑総務部長

山﨑総務部長／おはようございます。

まず、議員おっしゃったように、職員の事故等については、多々発生しているという状況がございます。
そこについては、事故がないような指導を今後とも行っていきたいと思います。
申し訳ありません。
ドライブレコーダーの件につきましては、事件事故等の早期解決、また、職員の運転マナーの向上、事故発生時の原因究明、この辺の観点から、令和元年よりドライブレコーダーの設置に取り組んでおります。
既存車両の取付けにつきましては、年次計画を立てて計画的、また、車両の入替え等につきましては、そのタイミングで設置している状というような状況であります。
なお、令和４年度末までで、約 60 台に設置を予定ということになっております。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／順調に進んでいるというふうに受け取りますけれども、市が持っている車両は 200 台だったですかね。
多分 200 台ぐらい、60 台、３分の１弱ですけども、特に、外を回られる建設課、農林課、今、多分、公民館とか学校とかはよくついているのを見かけます。
ぜひ進めていっていただきたいと思います。
では、次に移ります。
次は経済対策。
経済対策においては、コロナの第７波、1,000 人、2,000 人近く、今でも３桁。
武雄市の何人というのは発表されていませんけれども、出ています。
この第７波が今までと違うのは、経済的に違うのは、今までは、お店を休んだり、お店の時短をしたりすると、給付金が出ていた。
今回は、お客は来ないのに、店は開けとかなきゃいけない、
店は開けておかなきゃいけない、経費はかかる、でも、そういうふうな給付金も出ない。
今回の武雄市の予算、事前審査にならないような形で言いますけども、そういうふうな経済対策というのを、ケの字も書いていない。
そういうのに対して、もっと武雄市はやるべきじゃないかと。
武雄市は特に、少なからずの持続化給付金とかやっていますけども、災害、コロナ、災害、コロナと、武雄市は他の地区に比べたら多いです。
ダブルトリプルパンチ。
そういう中で、経済対策というのを触れていない。
例えば、これ、山﨑議員さんが指摘をくれたんですけど、例えば観光協会とか、いろんなと

ころのホームページに、もう潰れている店がいっぱい載っていますよという指摘を個人的に受けました。
山﨑議員さんはよく見てられると思います。
そういうふうな状況ですよ。
もう、店を閉める。
この次、乗り切れないかもしれない、新幹線開業しても、もう閉めなきゃいけないかもしれない、店は開けているのに、お客は来ない。
そういう状況を、まず把握されているのか、そして、この経済対策、何らかないのか。
以上、お伺いしたいと思います。

議長／小松市長

小松市長／おはようございます。
市内の事業者の皆様には、これまで、コロナ禍で様々な工夫をしながら何とか事業を続けていこうということで懸命に取り組んでおられると、ただ、やはり厳しいという声は私も承知をしております。
実際にそれも聞いております。
これまで武雄市では、国や県の事業者支援、その間のつなぎであるとか、そういう意味で、過去４回、給付金を支給してきました。
円安がますます今後続いていくんじゃないかというふうにも言われています。
今後さらに経済状況が悪化した場合には、今後、国からも、さらなるコロナの交付金が追加で交付をされるというふうにも聞いていますので、それをしっかりと活用して、間髪入れずに経済支援ができるように、今から準備を進めていきたいと思っております。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／よろしくお願いします。
もう、今の状態をいえば、２年半前にもうお金を借りて、もう支払いが始まっている。
追加の借り換えをするか、それとも店を閉めるか、そういう選択の時期に来ている。
店を閉めようと思っているときに何の支援もなかったら、やっぱり閉めちゃいますよね。
新幹線開業、目の前、ぜひそれが継続するように、先ほど市長が言われたように、間髪入れずにやっていただきたいと思います。
ありがとうございます。
では、続きまして、武雄市とＪＲとの連携。

ごめんなさい、ちょっと、さっきのことなんですけれども、作っていたんで。
先ほど、コロナ臨時交付金という話が出ましたけども、これは武雄市のホームページからの抜粋ですけれども、市の取組は、影響を受けている地域経済の支援と出ています。
市長が今言われたとおりです。
趣旨は、市長がしっかり把握されてやっていると思いますので、ほか執行部の面々もそういうところにきちんと目をやり、間髪入れずというのをお願いしたいと思います。
よろしくお願いします。
では、ＪＲと武雄市。
開業します。
嬉野市は、1,000 平米と書いてありますけど、これ間違いです。
１万平米。
１万平米のホテルを嬉野市は、ＪＲが経営してホテルを建てられます。
これは、開業は多分、新幹線の開業に間に合わないんで、来年ずれ込むということを聞いてますけれども、嬉野市は、こういう。
この話も、この１年以上前から進められていた話、開業がもう分かっているから。
早め早めに嬉野市さんは動き、ＪＲもボールを受け取り、ボールを投げ返しキャッチボールの末、できました。
ごめんなさい、これ１万平米。
大きな広さです。
センチュリーホテル等（？）どうでしょうか。
鹿島市茜さす、宿泊施設、これ行った方もいらっしゃいますし、執行部の行かれた方も、１泊３万とか４万のところを、ここだけじゃなくて何箇所か、ＪＲが経営されています。
じゃあ、武雄はなん、武雄はどがん進めようとと。
ＪＲ、県が武雄に対して、どのようなこういう協力関係を結んでいけるのか。
武雄とＪＲはどういう、こうやってほかはね、鹿島市に関しても、今まで十何台の特別仕様列車を話し合って引っ張ってきています。
武雄は何しているの。
鹿島の観光協会さん、会長さん、元市会議員です。
昔からの仲間です。
話を聞きます。
よく動いていらっしゃる、やっぱりそういうことで。
市も動いている。
そういう中で、武雄市はＪＲとどのようなキャッチボール、そして、こういうふうなイベントを持ってきているのか。

ぱっと見たところ、武雄市はあんまりこう、嬉野市とに比べて、嬉野市はもっとほかもやっていますよね、そういうのがなかなか目につかない。
ぜひ、そこのとこをお教えいただきたいと思います。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／おはようございます。
ＪＲ九州さんとの連携でございますが、まず、第一番に（？）、ＪＲ九州の職員について、現在、市のほうに派遣をしていただいております。
それと、ＪＲ九州様とは毎月、情報交換を行っており、開業に向けての準備や旅行商品の調整などを実施しております。
その結果といたしまして、武雄温泉駅開業後の弁当や山内町飲食店トラットリヤのスイーツなどを、９月 23 日から運行される観光列車ふたつ星 4047 で採用をいただいております。
また、10 月から始まります観光列車 36 ぷらす３では、周辺観光や観光交流センター等の利用促進のために、武雄温泉駅で約 25 分程度の停車を実施していただいております。
また、ＪＲが発行する時刻表や情報など、武雄市の情報を積極的に配信していただいているというところで、ＪＲとの連携については以上でございます。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／今、観光列車を止めるということ、じゃあ、嬉野市は何も止めないんですか。
嬉野市もやりますよね。
だから、それに後れを取っているんではないかと。
今からでも遅くないです。
もっと動いて、ＪＲと連携していろんなことをやっていただきたい。
直近で言えば、例えば開業の日、花火を上げんと、そんぐらいＪＲさんもってよって。
ＪＲさん、力入れていますよ。
逆に私もＪＲの開発局の人と会うと、武雄は何かないですかと私に聞くんですよ。
それだけキャッチボールがされていない、観光協会にしても市にしても。
ぜひ、これからもっとまめにやっていっていただきたいと思います。
何か、言いたそうですけども、言いますか、よかですか。
ぜひ、こういうのを進めていっていただきたい。
今からでも遅くない。
センチュリーホテルを紹介したり、いろんなところを紹介したりできます。

逆に聞かれましたもん。
ぜひやっていただきたい。
これ何でわざわざ１万平米って書いたというか、それ分かりますよね、武雄のホテルにしてもそうですし、これ以下のホテルって厳しいところもあります。
さっき、一番最初、経済対策で言いました、借り換えしようか、やめようかというところがあると思います。
これ全国の統計データですけれども、全国の統計データでコロナ後に借り換えが一番多い業種はどこかということで、ぶっちぎりの旅館、ホテルです。
ほかの２位以下に倍以上の差をつけて、借り入れがトップになっています。
それを返していかなきゃいけない、借らなきゃいけない。
ぜひ、これからも連携を進めていっていただきたい。
次、何やったかな、次、＊＊＊。
ちょっと戻しますね。
昨日、知事が、一般質問の答弁で新幹線に関して、佐賀駅を前提としないルートで考えてみますという答弁がありました。
少し前進したのかなとは思いますけれども､佐賀駅を通らないルートって何があるんだろう。
大和ルート、高速道路沿い。
そして、もう一つ、ほかには、例えば脊振山、直接穴掘って多久に出す。
そういうことも考えられないこともないでしょう。
そして、今、少なからず言われている空港ルート。
私は、空港ルートというのは反対であります。
ＪＲ九州もＢバイＣについては、最も効率が悪いし、投資額も倍以上になるということで言われております。
ただ、知事がどういうことで佐賀駅にこだわらずというのを言われたというのが私は分かりません、真意は分かりません。
ただ、ＪＲ九州の青柳社長、今の会長は、佐賀駅以外には考えていない。
新幹線の部長も佐賀駅以外は考えていない。
ＢバイＣが一番高いからですということで言われています。
そういう中で、今後、知事がどのように動くがしれませんけども、私自身は、新幹線の空港ルートには反対なんですけれども、唯一賛成してもいいかなという方式があります。
それも、武雄市とＪＲの連携の一つになると思うんですけれども、大体、空港ルートは私は反対ですよ。
でも、唯一賛成してもいいかなというのは、これですね。
空港まで、ＪＲのルートに決定したら、高架下というのは有明海まで行くんですよね。

有明海の近くまで。
この下を利用して、これを全部配水管にして、そのまま、どうせここ使わないんだから。
高架の下。
佐賀空港ルートになった場合の話ですよ。
この下を利用して、六角川、どうせクロスするから。
ここのところから、この下を利用すればいいと。
唯一私が賛成できる方法ですね。
以上に関して、市長、いかが思いますか。

議長／小松市長

小松市長／まず、新幹線のフル規格については、武雄だけの立場で言うと、とにかくどこでもいいから早くつないでくれというのが、多分一番大事なのかなと思います。
知事もどういう考えか、私も真意は分かりませんけれども、私は、空港ルートでも、個人的には、空港ルートでも、これは夢が描きやすいのかなと。
ただ、おっしゃるとおり、ＪＲは私も社長、専務、会いましたけれども、ＪＲとしては、佐賀ルートを考えておられると明言されているとおりだと思っております。
この新幹線を考えたときに、新幹線だけではなくて、そこに、いろいろな付随するものを、せっかくだから、やっぱり合わせて、その効果を高めていくと。
こういう発想は、やっぱり私はあってしかるべきかなというふうに思っています。
こういったアイデアをぜひ、何か河川事務所とか、そういったところにも、私からも話をしてみたいと思います。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／当初に言いました武雄市とＪＲとの連携。
もっと強く進めていく。
お願いしたい。
そしてルート、いろんな面でもＪＲと協力。
そして、これは昔からこうなればいいなと思ってた案を私が言っただけですね。
やっぱりこういうのも一つの、地域の災害を少なくする、利用するという意味の一つで、一つの構想の端っこと端っこぐらいなんですけども、こういう考え方もあるよということで御紹介させていただきました。
続きまして、次の月曜日だったですかね、火曜日、その前か。

サガテレビで、こういうのが出ました。
はがくれ時評の中で、西九州新幹線の開業日は葬式の日と。
葬式の日ですよ。
こがんことが言われてよかとか。
マスコミが言っていいのか。
それも地元の佐賀テレビ。
葬式という言葉は、その前に、村八分という言葉分かりますよね。
これは禁止用語じゃないと思うんですけれども。
村八分。
のけ者にする。
何かその人が起こして、村からのけ者にされる。
でも、八分の残りの二分は、これは皆さん御案内のとおりで、知ってらっしゃると思いますけども、八分はもう関係ない、無視しますよと。
残りの二分は火事、火事のときは手伝いますよ。
災害ですね。
手伝います。
残りの一分は何か、残りの一分は、不幸があったときには手伝いますよ。
お葬式のときは手伝いますよ。
村八分という言葉の残りの二分は、葬式のときの残りの一分なんですよ。
そういうふうに昔から日本の伝統で、そういう人でも葬式の日は協力しようというような伝統の中、開業日の前に、開業日は葬式の日。
例えばアサヒビールさんも新幹線の開業で特別な缶ビールもつくられています。
いろんな祝典があります。
開業祝典、記念イベント、記念コンサート、そういう中で、この放送を、そして、公共の電波をレンタルで借りている、放送法に引っかかる、そのサガテレビの中の、解説主幹が葬式という言葉を使っていいのか、甚だ疑問に思います。
これ、百歩譲れば、これは葬式じゃなくて、佐賀県減退の日とか、財政困難が始まった日とか、そういうのなら分かりますよ。
この葬式という言葉は適切なのか。
私は見たときに衝撃を受けました。
市はどのように対応されるでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／私もこの記事、ネットで見たんですけれども、愕然としました。
武雄市だけではなくて、新幹線開業、新幹線ができるから、これはやはり県全体でお祝いをしようと。
そして、新幹線の、武雄、嬉野だけではなくて、この効果を全県に広げていこうということで、そういう思いでやってきましたし、県もそういう思いでされてきていると思います。
そういうところに水を差す、まさに記事であり、発言だというふうに思います。
特に、長崎本線のルートについては鹿島とか、太良を念頭に置いて書かれているんだと思うんですけれども、私も鹿島の松尾市長とはよく話しているんですけれども、確かに便数は少なくなるけれども、でも、もう一回これをまちのスタートとして、いろんなところと連携をし、地域の磨き上げをして、そして、鹿島らしいまちづくりをしていこうということで、すごく頑張っておられます。
そういうのを知っているからこそ、私は、これは非常に残念であるというふうに思いますので、ここについては、私たちのほうからも、サガテレビに対しても、ここは抗議をしていきたいと思っています。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／市長、そうやっておっしゃっているのは、本当、お心強い限りですけれども、これは武雄だけではなく、嬉野、大村、諫早、長崎県全体もそうだと思います。
そういうところともぜひ相談しながら、やっていただければと思います。
本当に葬式は失礼と私は、この表現は思います。
では、続きまして、次の質問。
民生について。
民生について質問したいと思います。
まず、民生委員さん、ちょうど切替え時期です。
交代時期ですね。
今言われている、平成 15 年から計画が始まった、政府で始まり、今、下に下りてきている地域包括ケア。
この仕事内容の大きな違いは何でしょうか。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／おはようございます。
まず、民生委員の方の活動内容といたしましては、高齢者や障害者など、支援を必要とする

方に対し、訪問、見守りなど、個々に寄り添った支援を行っていただいております。
地域包括ケアにおきましては、話合いの場では、民生委員としての経験から具体的な情報や御意見等をいただいており、活動の場ではごみ出しや庭掃除など、地域の方と一緒に支え合い活動を行っていただいております。
活動内容としては、民生委員活動と重複するものが大きいと認識をいたしております。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／地域包括ケアはちょっと置いておいて、民生委員さんというところにちょっと力を入れて、力を入れてというか、いろんな市民の人から言われたこと。
そして、私自身も思っていること。
令和元年、水害が来ました。
そういうときは、市の職員さんも大変だった、消防団も大変だった。
いろんな方々が、被災を受けた方々も本当に大変。
民生委員さんも大変だったわけですね。
片づけが終わった後もケアで回らなきゃいけない。
そういう中で、民生委員さん。
翌年はコロナが始まった、コロナでまた独居老人、いろんなところを回らなきゃいけない。
昨年の災害、また一緒です。
民生委員さん、報酬約 12 万何百円、月 1 万 100 円か 200 円ぐらいですね。
そういう中で、先ほど言いました、１か月で 20 日、25 日、30 日出ても１万円、ガソリン代も出ない。
言い方悪いですけれども、私いつもここで消防団を応援しているんですけれども、消防団、おかげさまで、出動日数に対して手当が出ます。
職員さんも大変だったでしょう。
夜遅くから、朝早くから夜遅くまで、もしくは徹夜で市役所にいなきゃいけない。
でも、手当は出ます。
民生委員さん、ガソリン代も出ない、月１万円。
確かに、令和何年だっけ、私、議会で同じような質問しました。
そのとき、災害前だったんですね、そういうことがないとき。
あまりにも少な過ぎるんじゃないかと。
それで、当時は市内 10 市において、多分、報酬の順位が６番目ぐらいだったんですね、同率６番目ぐらいだったんです。
それを上げてもらい、今、３位になっていますかね。

３位になっても１万 200 円、月に。
中山議員さんも民生委員されていたんですよね。
それで本当にいいのかと。
今、ちょうど切替え時期と言いました。
やる人少ないですよ。
私、町の推薦準備委員会の委員長もしたことがあります。
準備委員会。
市の推薦準備委員長もしたことあります。
いろいろ聞きました。
本当に大変だと。
なかなか若い人、若い人っていっても、仕事しながらっていうのはなかなか難しいですから、60 以上引退した人とかなんとか（？）難しい。
そういう人の御苦労を迎える、そしてこの苦労が十分把握されているのか、これをお伺いしたいと思います。

議長／後藤福祉部理事

後藤福祉部理事／おはようございます。
民生委員につきましては、出動回数の増加や活動内容の多様化等により、負担が増えているというふうに認識しております。
また、担い手不足により、候補者の推薦に苦慮されている地域が多いというふうにも認識しておるところでございます。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／本当、大変だと思います。
民生委員さんは、市からではなく、直接、厚生労働大臣からの委嘱を受けます。
そういう中で、先ほど消防団との比較をしましたけれども、消防団、例えば交付金は、大体、１回出動当たり 7,500 円、実際計算するともっと安いんですけれども、その中の 1,800 円を出動手当として出して、民生委員さんは逆なんですね。
民生委員さんは、今さっき１万円と言いましたけれども、交付税自体は１万円も来てないんですね。
それに市の金を乗っけて、１万円にしてやっていると。
毎日出ても１万円、どこまで走っても１万円、いろんな活動があっても１万円。

本当、おんぶにだっこをしている状態。
かといって市は、その報酬を今大体 12 万で、一律＊＊＊12 万とか 10 万、１万の市もありますけれども、一律になっているところで、武雄市だけぽんと上げるわけにいかない。
じゃあ、どうすれば民生委員さんの御苦労に報いられる、次の民生委員さんも、これだったらやってもいいなというふうなことをできるのかと。
次、何だったかな。
ごめんなさい、ちょっと次の画像、見てもいいですか。
ごめんなさいね。
地域包括ケアと民生委員さんの仕事は先ほどお伺いしました。
地域包括ケアというのは、400 万円、令和６年度までに来ますよね。
400 万円やったかな、300 万円やったっけ。
ちょっと忘れました。
令和６年、今年までか。
４年度までです（？）。
この後、計画を立てていきます。
地域包括ケアで、どのように運営していくのか。
町別によっても違いますけれど、そういうときに、地域包括ケアに来るお金。
介護保険交付金を多分使われると思いますけれども、その介護保険交付金のその分配を民生委員さんの介護包括ケアという名目で、民生委員さんの活動費、ガソリン代、費用弁償、そういうのを包括ケアの中でやれば、民生委員さんの手出しも少なくなるんじゃないでしょうか。
これから、計画を立てられると思います。
民生委員さんの報酬をそのまま上げるのは難しい。
でも、包括ケアという名目でやるときに、民生委員さんと仕事がほぼ一緒ならば、包括ケアのほうでそういったのを出せる。
こういうことが考えられないか、お伺いします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／議員さんの御提案であります、活動支援につきましては、民生委員さんをはじめ、地域や個々の活動に応じた支援等について前向きに検討していきたいと考えております。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／繰り返しになりますけども、例えばこの数年間で、区長さん、連絡委員（？）さんも報酬が上がりました。
さらに、公民館長さんにしろ上がっております。
民生委員だけが変わらない。
民生委員だけが変わらない。
民生委員さんも、やっぱり出てきた回数でやる。
繰り返しになりますけども、直接あげられないなら、別の形で、地域包括ケアという形の交付金で支払っていただく。
ぜひ、先ほどおっしゃった、前向きという言葉を言われました。
そういうのを入れていただけて、民生委員さんたちの御苦労に報いる。
そして、さらに次に続ける人がこれならばというような形でやっていただければと思います。
では、次の質問、次の要望です。
民生委員さん、先ほど言いました、国の直轄です。
憲法 25 条、憲法 25 条で、国の全ての国民は健康でうんたらかんたら。
国は、増進に努めなければならない。
大体は、これは国の責任なんですね。
だから、そういう民生委員さんは厚生労働大臣からの委嘱になります。
本来ならば、国からの援助が、費用弁償、ガソリン代、活動費、なければおかしいのに、それの半分も来てない。
ややもすれば、３分の１しか交付金が自治体には来ていないと。
これはやっぱりおかしい。
武雄市は、九州市長会、佐賀の市長会において、要望を出されると思いますけれども、小松市長におかれては、もっと国のほうに厚生労働省、ひょっとすると国会議員、佐賀選出の国会議員さんにも、厚生労働省、強い方がいらっしゃるかもしれない、影響があるかもしれない。
例えば与党の中の厚生労働部会、民生委員部会の人でも影響が強い方がいるかもしれない。
ぜひ動かしてやっていただければと思います。
もしよければ、市長、議長ともタッグを組んで、こういうのを、要望活動とかやっていただきたいんですけれども、いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／この憲法 25 条生存権ですけれども、ここはおっしゃるとおりで、民生委員さんに

ついても、この 25 条から、これを受けて、例えば老人福祉法とか、ほかにも様々な法律ができていて、その中でも、民生委員さんはそれぞれの事務に協力をするというふうにあります。
厚生労働大臣の委嘱も受けておりますので、やっぱりここはしっかりと国が保障をすべきだというふうに思っています。
九州市長会から全国市長会を通じて、国には要望を今年もしております。
先日は知事要望でも、知事からもしっかり働きかけるように、佐賀県市長会でも要望をしました。
これについては、あらゆる機会を捉えて、国に積極的に要望し、提言をしていきたいと考えています。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／この条文で、国が唯一守っているのは、生活保護の保障の交付金のみであります。
本来は、地域包括ケアという名目で、本来国がしなきゃいけないのを地方自治体に丸投げしている。
ですから、民生委員さんの仕事と重複するならば、その分も国からきちんともらえるように、我々、地方自治、地方議会、そして、執行部も働きかけを一緒になってやっていきたいと思います。
ぜひよろしくお願いします。
では、次の質問であります。
周辺部対策。
周辺部対策は今までもいっぱい言ってきました。
その中で、今回取り上げるのは、市長が常々おっしゃる、そして、市長が最初に立候補したときに使われた言葉。
あるものを生かしていきたいと思います。
そして、選挙のたび、そして、いろんなところの講演のたびにあるものを生かすという言葉を、市長はよくよく使われております。
私も共感しております。
ですから、今までは、例えば若木町でいうと、永野の風穴、地域にあるものを生かす。
川古の大楠。
すみません、若木のことばっかり言って申し訳ないんですけれども、やっぱりそういうふうなのでお願いしてまいりました。
今回は、先ほどちょっと壇上で言いました、眉山キャンプ場。

眉山キャンプ場、本当、いいところだと思います。
キャンプ場開き、先ほどちょっと壇上で言いました。
最後に松尾議員さんとお話したのは、このキャンプ場開き。
この前もキャンプ場開きがありました。
220 度のパノラマ。
360 度とは言いません、220 度のパノラマ。
こうやって雲海も見えます。
キャンプをこうやってできるようになりました。
バンガローもきちんと設置されております。
あるものを生かすなんですけれども、供用は７、８、９なんです。
３か月なんですね。
その間は寝ているんですよ。
生かされていない。
そういうところも、ちょっと話してたんですね。
今、グランピングやらキャンプのブーム。
そして、眉山キャンプ場、キャンプで検索したら、ここに泊りに来た人が、ブログとかなんとかに書いていて、ものすごく褒めてらっしゃる。
いいと。
夜空がきれい。
これは本当に前から言われていることです、夜空がきれい。
そして、今、横のほうにちょっと、これ私が撮った写真なんですけれども、このキャンプ場のそばにある龍王宮。
これは若木の水の源だと言われています。
水の源だと言われています。
龍王宮があり、そのイチョウの木。
イチョウの木の高さは 28.5 メートル。
日本で一番高いイチョウの木は 31 メートル。
それに負けず劣らず、このようなちょっとした谷の中に龍王宮があってイチョウの木がある（？）。
これは 11 月です。
この共用外の日です。
７、８、９というのは、もちろん暑い。
それ以外の春の季節、秋の季節、キャンプ多い。
そういうのを、なぜ利用できないのか。

もちろん、大前提には、地元、菅牟田区の人たちのこれ以上の労力を増やさないというのは大前提にあります。
では、この３か月だけその地区に、今までと同様の保全をお願いし、同額並みの、同額以上の保全料をお支払いし、残りを市で直接、残りというか、もう通年、近隣のキャンプ場も 365 日ですよね、＊＊＊キャンプ場ですけれども。
そういうのを考えられないのか。
例えば乳待坊キャンプ場ですかね、あそこは前回、建物のテントのほう、私が（？）新しくして、サウナか、サウナも３基設置しましたよね。
置けるようにしました。
そういう感じで、この眉山キャンプ場をもっと生かして、通年にし、もう、市が直接管理するような形で資本投下して整備して、やってくれることを話しておりました。
ぜひ実現したい。
大楠公園も数々質問してきました。
永野の風穴も質問してきました。
キャンプ場を質問するのは、多分、私、長い議員の中でも、２回目か３回目ぐらいですね。
ぜひ、通年及び市の整備、サウナでも、一番いいのは露天風呂みたいながいいんですけれども、そういうのができないかお伺いします。

議長／諸岡こども教育部理事

諸岡こども教育部理事／おはようございます。
眉山キャンプ場は、青少年の健全育成及び市民の健康の増進を図るため、設置をしております。
地元の菅牟田区の協力を得て管理運営をしております。
先ほど議員がおっしゃったとおりでございます。
通年開設につきましては、キャンプ場の水道は山水を利用しており、天候により水量確保の問題や、冬場の水道管凍結の問題があり、また、菅牟田区の負担を増やさずに開設期間が延長できるかどうか。
眉山キャンプ場は教育キャンプ場としておりますけれども、教育キャンプ場としての位置づけを含めて、調査検討していきたいと考えております。

議長／小松市長

小松市長／今、教育委員会から、教育キャンプ場というところの視点から話がありましたけ

れども、私もうちょっと大きい話をしたいんですけれども、そもそもじゃあ、これからも教育キャンプ場であり続けるべき理由って何なんだろうかなと。
先日も山開き式に行ったとき、そう思いました。
昔はやはり、そういう理由があったのかもしれない。
例えば公民館が社会教育の場だけでなく、コミュニティの場に広がっていったように、教育キャンプ場もこれからやはり、今の、時代が変わっていったので、やっぱりそこに合わせて変わっていくべきなんじゃないかというふうに、私自身は思います。
やはり本当にすばらしい場所であるというのは行くたびに、私も感じますので、ここをもっと生かし切るというところが、武雄の、そして、地域の活性化にもつながってくるというふうに思います。
通年利用など、今、様々な御提案をいただきました。
やはりそこをしっかりと踏まえて、今後ここのさらなる魅力化と活性化をぜひ図っていきたいと。
ここは教育委員会ともしっかりと話をして、活性化につなげていきたいと考えています。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／市長、ありがとうございます。
に比べて、教育委員会の答弁の情けないこと。
何ですか今の答弁は。
水が凍るかもしれない。
消防団の、例えば貯水湖、ああいうのを、５トンぐらいのやつを安くつくればいいじゃないですか。
できない理由ばかり、つらつら述べて、ひょっとして、これだと、私一番バッターですけども、ほかの議員さんの答弁でも、そういうふうなできない理由の列挙なんてしているんじゃないでしょうね。
365 日、菅牟田区の負担なしでってちゃんと前もって言っていたじゃないですか、通告でも。
市長はちゃんと言っていただけましたよ。
やっぱりね、あるものを生かすですよ。
きちんと資本を投下するときは投下する。
そしてあるものを生かすためには、どうすればいいかというのを考えていっていただきたい。
教育長、いかがですか。

議長／松尾教育長

松尾教育長／議員御指摘のとおりですね。
今、３か月だけの開設期間でございますけれども、それ以外の時期もたくさんのすばらしい自然があることは認識しております。
今、市長からの発言もありましたとおり、前向きに検討して、いろんな条件をクリアすることはありますので、その辺を一つずつ解決しながら、市民の皆様、あるいは市民以外の方にもたくさん利用していただいておりますので、そういった皆様が自然を共有できるような場所にできるように、検討していきたいと思っています。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／検討にはいろいろありますよね。
その場逃れの検討、前向き検討、やれることを前提の検討。
さっきの答弁を聞いたら、もう、情けない。
やらない理由をもう列挙するような感じで。
わざと自分で障害をつくっているんじゃないか。
教育委員会がそれでいいんですか。
違いますよね。
よろしくお願いします。
落ち着きました（？）。
では、先ほど市長の答弁、そして教育長の答弁を受けて、ぜひ早急に進めていただければと思います。
よろしくお願いします。
よかですか。
よろしくお願いします。
続きまして、地域の保全の中。
地域の保全で一番、今困っている、ここ数年で一番大変なのが、蔦、カズラ、葛、何て言えばいいんですかね。
これが、タイガカズラって言うとですかね、タイバカズラという、すみません。
これがね、ここ数年、もう急激に出て、これはね、ここに切ってみると（？）、切れないんですよ、もう粉砕していくしかない、労力が倍かかると。
本当に多い。
そういうのが周辺を苦しめている一つです。
これを何とか周辺部の、ここで繰り返し、繰り返し、御案内して、もう十分分かっているこ

とだと思いますけども、これ草刈りすると大変です。
粉砕しなきゃいけないから倍かかります。
例えば消毒、消毒じゃないや、何っていうの、除草か。
簡単に畑に影響しないような除草剤、そういうのをまく。
そういうふうなのは労力は減りますし、ただ、お金はかかる。
そういうふうな援助はできないのかというのが１点。
もう１点は、周辺部対策の一つ。
地籍図に航空写真をということであります。
こっち側、武雄市が発行している字図です。
地域の字図、自分の番号を知りたいからといって、聞いたらこういうふうな画像が出てきます。
こっちのカラーの航空写真は、伊万里市が発行している部分です。
これちょっと２つこう重ねて、重ねたというとこ（？）ちょっと切り取って、縮尺を合わせてやったんです。
これだと、自分の土地がどこがどこだか、分からんですよね。
こっちだと分からない。
でもこういう航空写真だと、自分が、ああこの辺がうちの土地なんだ、ここがうちの土地なんだというのがよく分かります。
これは何でかというと、田舎のほうは周辺部は山をたくさん持っています。
父ちゃんが亡くなった、山を受け継いだ。
でも、どこにあるんだろうと、武雄市の字図を取ればこういうふうな形で出るんで、なかなか把握できない。
でも、こうやって航空写真に重ねて出てくると、ある程度は把握できます。
これから、今もそうですけども、どこがうちの山か分からんもんねという声を今でも聞きます。
どこか調べようと思ったら、地域のおんちゃんたちと、こっからここまでじゃなかかにゃというぐらいしか聞かんですけれども、こういうふうな字図だと分かりにくいけど、航空写真ですれば分かりやすい、把握しやすい。
武雄市はまだ採用されておりません。
これはさっき言いました、伊万里市は採用されています。
ぜひ、これを採用していただきたい。
以上、２点をお伺いしたいと思います。

議長／黒尾営業部理事

黒尾営業部理事／おはようございます。
薬剤等の購入などの地区の実情に合わせ、柔軟に対応できるよう、現在あります地域資源保全管理支援事業の制度の見直しを図ってまいります。

議長／山﨑総務部長

山﨑総務部長／交付につきましては、新たな自主財源の確保等の観点から、交付に向けた準備を進めてまいります。

議長／18 番　牟田議員

牟田議員／ありがとうございます。
以上で一般質問を終わります。
教育委員会さん、よろしくお願いします。
備えあれば憂いなし。
以上で終わります。

議長／以上で 18 番牟田議員の質問を終了させていただきます。
ここで、議事の都合上、５分程度休憩いたします。

＊　休憩中　＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。
一般質問を続けます。
次に、３番　毛利議員の質問を許可いたします。
御登壇を求めます。
３番　毛利議員

毛利議員／おはようございます。
ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、３番　毛利清彦、一般質問をさせていただきます。
新人議員、２回目の質問でございますので、不慣れな点がありましたら御了承をお願いしたいと思います。

今日の私の一般質問は、武雄市の人口について、西九州新幹線について、地域包括ケアシステム拠点整備事業についての、この３点についてお聞きしたいと思います。
まず、質問の前に、ショッキングな記事を御覧いただきたいと思います。
イーロン・マスク氏が言われました、５月７日のツイッターで、日本は消滅するよと、怖い話でございます。
もう皆さん御存じと思いますけれども、2020 年から、2020 年の 10 月から 2021 年の９月までの１年間、総人口の変化を見ると、日本人の人口は 65 万人減少したと。
死亡者数が 144 万人に対して、出生数が 83 万にとどまり、差引き 61 万の自然減となったということで、出生率が死亡率を上回るような変化がない限り、日本はいずれ消滅するだろうと、そういうふうな怖い話なんですけども、まず最初の質問は、武雄市の人口の増減について質問をしたいと思います。
よろしくお願いします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／武雄市の人口の増減についてでありますけれども、住民基本台帳に基づく人口での１年間の比較をいたしますと、昨年３月 31 日現在の人口４万 8,390 人に対し、今年３月 31 日現在の人口は、４万 7,951 人で、439 人の減となっております。
自然増減、社会増減の内訳では、自然増減では出生者 368 人、死亡者 640 人で、272 人の減。
社会増減では、転入者 1,484 人、転出者 1,639 人で、155 人の減となっております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／今お話がありましたように、430 人ですか、減。
私が調べた調査によりますと、これは令和４年、合計４万 7,959 人。
今、492 人(？)ですか、減っておりますけれども、令和２年の 2020 年 10 月１日の国勢調査によりますと、2015 年から 1,100 人減っております。
すごい減り方です。
また、最高(？)佐賀の人口とかを見てもらうと結構なんですけれども、本当に減っておるような現状です。
この減っている内訳といいますか、一覧表といいますか、各町の人口の増減について、質問したいと思います。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／モニターをお願いします。
各町別の人口増減になりますが、武雄町と朝日町では増。
他の町においては減となっており、特に山内町、北方町での減が大きい状況となっております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／よかったら、もう一度、モニターをお願いします。
御覧のように驚きと思いますけれども、さきの震災、水害によりまして、やはり北方の議員さんもいらっしゃいますけども、本当に 221 人の減でございます。
やはり水害が原因じゃないかなと私は分析しているんですけれども、私の地元の橘町も私、神主しておりますので、地鎮祭とか、家の解体とか行きますけども、今年は、家を解体してくれというお祀りを２件ほど行きました。
やはりお話を聞きますと、もう、水害なので、もう橘町を出ていくという話でございました。
調べますと、やはり 10 世帯ぐらい橘町から出られました。
ということは、三角マークといいますかね、減というのは、水害とか高齢者とかいろんな問題があると思いますけれども、この北方の減り方は異常でございますので、この辺の分析等はされていると思いますけれども、ぜひ、いろんな増減について、要因があると思いますので、この辺もいずれ調査とかしてほしいと思っております。
これについて質問はいたしませんけれども、次に、ショッキングな。
人が減っているというのに上乗せしまして、これも佐賀新聞のほうから出た、警視庁生活安全局生活安全企画課の発表ですけれども、
コロナの影響で自殺者が 8,000 人に増えたという記事が出ておりました。
コロナでこれだけの自殺者。
一番多いのは、平成 15 年でしたか。
４万人ぐらいいたそうなんですけど、ずっと下降気味で、例年２万人くらいの自殺者がいらっしゃる。
コロナに、コロナで自殺する。
要するに就職難とか、経営不振とか、そういう理由で、日本全国 8,000 人も減ったということが発表されております。
これも就職、経営不振、これも市として、やはり経営不振の方を救済するといいますか、そういうのも考えてほしいと思います。
ここで、現状の一般質問はしませんけれども、市として、日本がこういう状況であるという

のを把握されていると思いますけれども、ぜひ、この数字を、現実の数字と思って調査、また対応をお願いしたいと思っております。
これだけ減ればですね、すごいことになっておりますけれども、もう一つ見てほしいのが、これも御存じと思いますけれども、同じように佐賀の人口も、現在、佐賀の人口が 81 万 2,000 人余りですけども、これも去年から 6,000 人が減っているんですよね。
人口増が、鳥栖市、吉野ヶ里町、基山町、上峰町、みやき都。
イメージいいですよね、人口が増えたら。
本当に。
何か増えたらイメージがいいというか、武雄は何かイメージが悪いというか、減っていますのでね、増えた地域、本当にイメージいい。
県の政策部がコメントを出しております。
これもＮＨＫただいま佐賀で出たコメントですけれども。
人口減少は避けて通れない問題だと。
いかに佐賀を魅力的にするかがポイント。
いかに佐賀を魅力的にすることがポイントと書いてあります。
佐賀を魅力的に。
それと佐賀の人たちに地元を好きになってもらう政策に力を入れていきたい。
これちょっと気になったのが、地元を好きになってもらうというコメントですけど。
地元を好きになってもらうということは、地元があまり好きじゃない。
好きじゃないから、こういうふうな、地元を好きになってもらう政策に力を入れていきたい。
こういうコメントを県の政策部が出しておられます。
これを逆に、武雄として、コメントするのでしたら、いかに武雄を魅力的にするのがポイントですね。
佐賀の人たちに地元を好きになってもらう政策に力を入れていきたいと。
今日のテーマは、社会増から自然増というのをテーマにして話を進めて、質問をしていきたいと思っております。
それで、武雄市も自然増に力を入れておられます。
お結び課、大変ですね、御苦労をされております。
お結び課の業務内容をお聞きしたいと思います。
現時点での実績について御質問いたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／おはようございます。

まずもって、令和４年度の実績につきましては、４月から８月までの５か月間で、会員同士で成婚された方々が８組、16 名。
会員以外の方と成婚された方々が 28 名、計 44 名でございます。
本事業におきましては、平成 22 年９月から開始しておりまして、これまで成婚された方々は、会員同士で 53 組 106 名、会員以外の方とが 195 名の、計 301 名でございます。
なお、成婚を希望されている方々の相談、紹介以外に、趣向を凝らしたイベントなども行っておりまして、最近では新型コロナ感染拡大に伴い、事業自粛の時期もございましたが、お見合い件数、成婚数ともに、年々増加している状況でございます。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／大変ですね、お結び課の方は、日々努力をされて、受け身のブ（？）じゃなくて、攻めのブ（？）といいますか、そういうのに本当に感銘をするわけでございます。
ずっと、私の資料によりますと、やはり増えているということで、例年の、昨年よりも６倍の実績を推移しているということで、大変うれしいなと思っています。
こういうふうなお結び課をやはり積極的に応援したいなと思っております。
お結び課に対して、市のビジョンについて、お聞かせいただければと思っております。

議長／小松市長

小松市長／お結び課が頑張っていると言っていただいて、本当にありがたく思っています。
私３つあると思っていまして、一つはやはり、今、かなりきめ細かくサポートをしておりますので、そこをこれからもしっかりと継続をしていくというのが一つであります。
そしてもう一つは、コロナ禍でやはり出会いの場がどうしても以前よりも減ってきているということですので、さらに登録者を増やしていくというところが２つ目です。
そしてこの３つ目なんですが、市外や県外の方の登録者を増やして、そして、市の定住・移住政策と連携をして、成婚をしていただいて、その後、武雄で移り住んでもらうと、この移住政策との連携というところで、結果、武雄に住んで、幸せな御家庭を築いていただく。
ここにも今後さらに力を入れていきたいと考えております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／個人的な見解ですけれども、やはり、いろんな少子化問題、これは、次になります。

少子化問題よりも、少母化問題。
結局、私の調べたデータ、1985 年、37 年前ですけれども、1,060 万人いたお母さんが、30 年後、2015 年ですけども、半分の 497 万人に減ったと、しかいないと言いますか、半分に減ったというデータがあります。
要するに、今、1.4 ぐらいですかね、１人、女性が産む子どもの数といいますか、そういうデータですけれども、まず、それは大きな間違いで、お母さんがいないという問題が起きている。
これが人口が増えない、大きな問題だと思っておりますので、こういうのを、やはりお結び課なりとも、やはりこれを応援してほしいと思っております。
いつも基本テーマですけれども、社会増から自然増、社会増というのは本当に見込めないと思います。
要するに、人口の奪い合いになるので、あそこが増えた、こっちが増えた、こっちは武雄市は増えた、しかし、どこかは減るので、やはり自然増への検討をぜひ議論して、攻めのお結び課じゃないですけれども、市を挙げて、自然増の道を歩むような方針を取ってほしいと思います。
また、移住問題でも、これはやはり、結婚したら空き家政策として、空き家を１軒あげるよみたいな感じで、そういう議論もいいんですけども、やはり今問題になっています、いろんな宗教の問題もありますけれども、変な人が居住されたら困るなと、出て行けではないですけども、そういう問題もありますので、簡単に、結婚したらこっちに移住してくれ、空き家をやるよと、そういうような問題にならないかと思いますけども、ここを重点的に、個人の見解ですけれども、少子化ではなくて、少母化、頑張ってほしいのはお結び課、もっともっとお結び課に頑張ってもらって、社会増から自然増へというような道を進んでほしいと思っております。
次に、また怖い。
先ほど申し上げました、県としましても、魅力あるまちづくりを目指そうということで、今日のポイントもですね、これ何ですか、これ。
都道府県の魅力度ランキング、佐賀が 46 位です。
去年＊＊＊45 位から、また 46 に下がっているんですけど、これは 2001 年のブランド総合研究所の調べなんですけれども、とても魅力的で 100 点で、やや魅力的が 50 点。
あとはゼロ点。
46 位。
ゴルフでいうと、ブービー賞です、ブービー賞。
ゴルフでブービー賞だったら、商品もいいんですけれども、拍手もあります。
これは拍手がもらえない数字なんです。

46 位。
47 都道府県の中の、下から２位ですね。
これはすごい数字ですね。
ちょっと、画面を大きくしてみますと、ここなんですよ。
福岡が７位で、魅力ある県が福岡が７位、長崎が８位。佐賀 46 位。
新幹線が通ります。
私も、九州を初めて旅をする、旅行するという前提で話をしますと、関東から、九州はどこがいいだろうか、阿蘇がいいだろうか、宮崎がいいだろうか、そうね、長崎に行こうという話になると思います。
２泊３日。
そうなると、福岡の観光をして、中州でどんちゃん騒ぎして、屋台で酒を飲んで、次は長崎に行きますよ。
８位の魅力がある長崎。
長崎を観光して、ちゃんぽん食べて帰ると。
２泊３日。
間の 46 位の魅力がない県に行きますかという話ですね。
要するに、７位と８位、魅力ある県の間に入っています、佐賀県 46 位。
本当に魅力がある県にしないと、武雄市にしないと、新幹線もできました。
本当に、この順位は変えようがない順位なので、ゴルフでいう飛び賞ではありませんけど、上位を目指して、努力する必要があると思うんですけれども、これが魅力度ランキング。
もう一つ面白いのがありますね、よく調べ＊＊＊。
愛着度ランキング。
愛着度もブービー賞なんですよ。
けつから、けつからという言い方はね、下から２番目。
前は 40 位が、また 46 位に下がっています。
愛着度がない。
要するに地元の人が愛着度がないんですよ、この数字によると。
だから、怖い話で、佐賀県民は、佐賀の自分のところに愛着がないという答えが、この数字に出ております。
市も頑張っておられます。
この数字というのは、もう御存じと思います、執行部の方はこういう数字はもう頭の中に入っておられると思いますけども、市も一生懸命頑張っておられます。
毎回、面白いアイデアを出されますと私は感心しているんですけれども、本当に武雄市の新幹線課とか、いろんな課がいろんなアイデアを出しておりまして、私はこのアイデア、皆さ

んすごいなと思って感心しているんですけれども、魅力ある市にするためにですね、私、探しました。
武雄市移住支援サイト。
これもさすがだなと。
今はやりの、たけ推し、これもいい標語だなと。
右側の、これも感動しました。
ぽぽちゃん。
先ほど申し上げました、魅力があるかないかじゃないですけども、一般の市民に武雄市の魅力を伝えていただける方を募集します。
ぽぽちゃん。
募集しました。
それについて質問です。
このぽぽちゃん。
武雄市の魅力を伝えていただける方の報告をお願いしたいと思います。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／まず、ぽぽちゃんを使った魅力を発信ということで、大きく３つの方法で今発信を行っております。
１つ目が先ほど議員が御指摘いただきました、各種団体や市民を巻き込んだ情報発信でございます。
これにつきましては、ぽぽちゃんと一緒に、武雄市の魅力を発信する方を３回にわたり募集いたしまして、ピープル株式会社様より 100 体を超えるぽぽちゃんを贈呈いただきまして、それを皆様方にお配りし、ＳＮＳ等で投稿して、武雄市の魅力を拡散するという事業でございます。
現在、１回目が終了しておりまして、今２回目の募集を行っております。
３回目につきましては、来年の１月に募集、全体で約 100 体を皆様方にお配りするという計画でございます。
そのほか、ピープル株式会社様が運営しておりますぽぽちゃんのホームページ、インスタ等で武雄市の情報発信を行っていただいたり、ぽぽちゃんが武雄市のお出かけスポットに出かける(？)ポスター等を掲示などを行っております。
また、こども図書館や宇宙科学館において、武雄市オリジナルぽぽちゃんのおそろいの写真撮影会、衣装撮影会等も開催をして、ＰＲを行っているところでございます。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／ぽぽちゃんの話はいいんですけども、問題は、私が言っているのは、武雄市の魅力を伝えていただける方を募集（？）。
武雄市の魅力について、何か内容的に武雄市の魅力、そういうのは資料としてないでしょうか。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／議員御指摘の部分でございますが、まず、今取組をしております１番目に報告をいたしました各種団体、市民を巻き込んだ情報発信という中で魅力発信をお願いしているということで、これにつきましては、各団体、保育園、もしくは個人の目で武雄市と一緒に実際に住んでいただいて、ぽぽちゃんと一緒に、武雄市のいいところを発見していただき、それを発信していただくということで、皆様方にそこはお任せをしているという状況でございます。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／私が聞きたかったのは、その武雄市の魅力、こういう魅力が、募集をしたのにあるよというような紹介をしてほしかったんですけど、ぜひ、次、次回ですね、武雄市の魅力、こういう魅力も上がっていますよというのを報告をお願いしたいと思います。
以前から申し上げています、人口が減って、どうやって増やそうか。
要するに佐賀もそうですけど、佐賀県も一生懸命考えて欲しいのは、やっぱり魅力なんですね。
こんな魅力がある。
そこで、武雄市の魅力。
伝統行事で１階のロビーで武雄の祭りということで写真展が行われていますけども、浮立の写真がずっと 16 点ばかり並んでいますけれども、そういうような武雄市の魅力がある。
武雄市。
武雄市に住んだら、こういうふうな魅力がある市なんだよ、すてきな市なんだよと。
ここで武雄市に住んで、子供を育てたいと、そういうのを情報を発信してほしい。
そうすることによって、さっきブービー賞の佐賀県じゃありませんけれども、魅力ある市になると思います。
ぜひ、伝統文化の活性化について、どう伝統行事を活性化させるか。

市のビジョンとして御質問いたします。

議長／諸岡こども教育部理事

諸岡こども教育部理事／まず、ちょっと市の取組のほうを御紹介させていただきたいと思います。
市の取組といたしまして、指定を受けている重要無形民俗文化財の保存会への補助制度のほか、文化財の指定、未指定を問わず、道具の修理などの相談対応や情報交換、また、国や県、民間などの補助制度の紹介をするなど、伝統芸能の継承、伝承に努めております。
昨今のコロナ禍の厳しい状況の中、地域の保存会では、工夫しながら継承活動に奮闘いただいております。
伝統芸能の発表の場であります、武雄市伝統芸能まつりが、ここ３年中止になったこともありまして、先ほど議員のほうからも御紹介がございましたが、広く市民の皆さんに武雄のすばらしい伝統芸能を知ってもらい、伝承につなげていこうと、現在市役所１階ホールにおいて伝統芸能パネル展を行っているところでございます。
今後のビジョンにつきましては、昨年度、武雄市文化のまちづくり構想を策定し、これまでの武雄の文化を大事にしながらも、新しい要素を取り込み、新しい文化を生み出し、活気とにぎわいが生まれるまちを目指すこととしております。
その実現に向け、地域に根づく文化を受け継ぐ若い人材への育成、人づくり、また、地域の伝統芸能や、伝統文化など、特色ある地域の財産を受け継ぎ、さらに発展させ、市民につなげることなどを取り組んでまいりたいと思っております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／私の質問というか、結局、これは、一連の流れでお話をさせていただいておりますので、魅力ある市。
もし結婚したら、こういうふうな武雄市は伝統行事があるので、参加をしてほしいとか。
そういうふうな積極的な地域の取り込みを考えてほしいと思っておるので、質問したわけでございます。
６月の初議会で私は一般質問をさせていただきました。
「武雄市民遺産」、私の願いでございます。
やはりいろんな地域、地域に、重要文化財、国宝以外に、先ほど牟田さんも言われました、キャンプ場ではありませんけれど、そういうふうな宝物がたくさんあると思うんです。
それを市民遺産にしてほしいと。

その後の進捗状況をお聞かせください。

議長／諸岡こども教育部理事

諸岡こども教育部理事／「武雄市民遺産」制度設立につきましては、既に行われております他市の先行事例や文化財の既存の各種制度の動向などを、現在調査をしているところでございます。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／今、また同じ返答がありましたけれども、調査中ということでございますけれども、調査はいつまで続くかよく分かりませんけれども、やはり 47 都道府県の 46 位という意識を持たれて、やはり村おこし、まちおこし、武雄の魅力を発信してほしいので、提案したのが「武雄市民遺産」でございます。
市民の遺産をつくることによって、いろんな地域から、武雄市はこんなすてきなところなんだ、未来に伝えたい武雄の宝をもっとＰＲして、武雄に住みたいとか、武雄で子供を産みたい、育てたい、社会増から自然増へと計画をもっともっとしてほしいと思っております。
ぜひ、「武雄市民遺産」の前向きな検討をお願いしたいと思います。
ちなみに、前回浮立、地元ですみません、橘の伝統文化彼岸登りが今月 9 月 20 日から 26 日、これもめずらしいお祭りです。
彼岸の、各区で、１週間ですね、浮立やっていただいて、今回コロナで縮小されますけれども、こういうお祭りをやはり、武雄の宝ということで、市民遺産にぜひ推薦を。
いろんなところもあると思うんですよ。
いろんなところも、やはり市民遺産にしようと。
そして、武雄市をＰＲしようと、そういう前向きな取組をお願いしたいと思っております。
次に行きます。
西九州市新幹線についてですけれども、私がびっくりしたのは、佐賀県市町ハンドブック。
皆さん御存じと思いますけど、これは、何ですか、これ。
この表題。
2022 年秋、西九州新幹線、嬉野温泉駅開業、武雄温泉が入っていない。
これは問題ですね。
こういうのは、チェック入れられたんですか。
ちょっと、私その中で、ずっと読んでいる中で、中身はすごいなと感動しました。
こんないいハンドブックがあるんだったら、表紙はもう少し議論し合うべきだったんじゃな

いかなと思って、こういうのですね。
武雄市も、武雄も入れてほしかった、武雄駅。
何か嬉野温泉駅だけ開業するみたいな、ハンドブックなんですけども、私がこれはすごいなと感動したのが、中の武雄市、名産特産品の中に、おすすめ情報として、山内のパクチーとか、橘産さがびより、レモングラスとか書いてありますけれども、佐賀産さがびより、読ませていただきました。
武雄市、橘町で生産されているさがびよりはということで、ＪＲ九州、クルーズトレインの七つ星の食材としても採用されています。
このコメント非常に面白いというか、これはすごいなと思って、中身は褒めました。
これは表紙は褒めていませんですけれども、こういうふうな、西九州新幹線にどう対応するか、地域の活性化、新幹線開業を機に、トップセールスについてお聞かせいただきたいと思っています。

議長／小松市長

小松市長／新幹線が開業して、武雄は交通の要衝となって、利便性がますます高まります。
やはり、先ほどから社会増減というところと、あと、自然増減、移住をしてこられた方々が、お子さんが生まれれば、社会増でもあるし、自然増にもつながるというところで、非常に大事だと思っていまして、これはやはり利便性で、通勤通学範囲も広がります。
武雄に住むと、非常にやっぱり暮らしが便利に豊かになってくるというところを捉えて、周辺自治体、市外からの人を呼び込むというのがまず一つです。
呼び込んだ後、やはり大事なのは雇用だと思っています。
仕事の幅を広げて、そして多様ある業種で、様々な仕事があるというところですので、やはりここについても、今日、佐賀新聞で、株式会社平島さんの進出が載っていましたけれども、平島さんも、やはりこの要衝であるというところを重視して武雄に、熊本から進出されたということですので、やはりここを活用して、企業も呼び込むというところです。
観光についても、やはりここは広域でしっかりと連携して、武雄を基点に西九州を回っていただくような、人を呼び込むというのもありますし、やはりせっかく長崎とつながっていますので、やはり佐賀と長崎の、流動性を、私は高めていく必要があると思っています。
どうしても、長崎の人が佐賀に来るということがそんなになかったと聞いていますので、そういったあたりもしっかりと長崎に、この武雄から売り込んでいきたいと考えています。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／私、個人的に、福島県の福島市の小林前市長と、よく知り合いで、福島という、果物は、桃が有名なんですね。
１位が山梨県で、２位が福島県。
皆さん、福島県の桃が有名だという認識はないと思いますけども、山梨県が３万トンぐらいですかね、福島が２万トンぐらい、桃がとれています。
桃が有名じゃない福島で、震災でイメージが悪いんですけども、小林市長と一緒に駆け巡りまして、トップセールスといいますか、桃を売り込みにいったことがあります。
それで今、何年か前、スーパーに、福島産の桃が出ております。
先月も出ていましたけれども、ここまで福島産の桃が有名になったなといって喜んでおりますけれども、そういうトップセールスといいますか、ものを売り回って、地域を有名にするというか、それも市長の仕事ではないかなと思っております。
それで、先ほどお話ししました、今、田園風景で、夢しずくが穂をつけております。
その後、さがびよりに行くと思いますけれども、先ほど申し上げました、山内のパクチーとか、佐賀産さがびより。
これは10年連続の特Ａ評価、いろんな産業というよりも、挙げているのは特産物ですので、こういう特産物がこの武雄にもたくさんあるよというのを紹介してほしいと。
先ほども答弁で、市長はもう、いいですかね、市長に。
市長の戦略等をお聞きしたいんですけれども、いいですか。
では、市長の、新幹線に対しましてのいろんな戦略をお聞かせください。

議長／小松市長

小松市長／地域産業の活性化ということでいうと、今挙げていただいているように、武雄には本当にたくさんの魅力的なものがあります。
ブランド化されているものもあります。
私はやはり、今回、新幹線で、たくさん武雄にお客さんが来られるきっかけになると思っていまして、その方たちにいかに、やっぱりこの名産、特産物との接点をつくるかというところが大事になってくると思います。
今まではどちらかというと、農業は農業、そしてそれを販売する、観光は観光というところがありましたけれども、例えば、観光と農業をもっと組み合わせて、いわば、体験することが観光にもつながる。
そしてそこで買ってもらったものが農業の振興にもつながると、そういう体験価値みたいなのを、これをきっかけに増やしていくことが、観光客の満足度と、そして、地元産業の活性化にもつながってくると思いますので、そこは観光協会などともしっかり連携をして、進め

ていきたいと思っています。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／ぜひ、観光協会と、いろんな地域との連携を取って、ぜひ、地域産業の活性化に努めてほしいと思います。
それで、新幹線の御船山口の広場に、橘町出身の方が、オリーというレストランをつくっております、喫茶店が開業いたします。
その窓ガラスに、武雄中学校、これ武雄高校も入るんですけれども、美術部の方が新幹線の絵を描いておられます、窓に。
みんな協力的に、この新幹線で、応援しよう、応援体制に入っています。
何でその橘町出身の方が、先ほど申し上げましたように、橘産のさがびよりを売り込もうという活動をされております。
右側に可愛い女の子のキャラクターがありますけれども、これですね、私も一役買わせてもらいまして、議員になる前に商標登録を取りました。
橘みさえ、登録番号(？)ありますけれども、これ議員になる前なんです。
私、いかに橘町のイメージキャラクターをつくろうということでつくったのが、橘みさえ。
橘出身の方は、小学校出身の方は御存じと思いますけれども、橘小学校の校歌、橘は実さへ花さへその葉さへ枝に霜降れどいや常葉の樹。
その名前から取った、橘みさえです。
このキャラクターが、橘町のお米を有名にする、いろんな面で、この活用を、いろんなところで橘みさえを登場させたいと思いますので、執行部の方、ぜひ、この橘みさえを、蛇足ですけども、利用していただければと思っております。
答弁しますか。
では、そういうことですので、一応、答弁といいますか、もう、感想で結構です。
私もいろんな面で、商標登録、これ、商標登録というのは、くまモンと対等なんですね、特許なんです。
これを取りました。
取るというのは大変な、商標登録は大変です、作業が。
私もあと２つぐらい、全部で３つぐらい持っているんですけども、このキャラクターを橘町の起爆剤になるかどうか、どなたか質問をいたしますけれども、お願いいたします。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／御提案ありがとうございます。
内部でも検討しながら、ぜひいろんな活用ができれば、できれば活用していきたいと考えています。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／どうもすみません、変な質問しましたけども、そういうことです。
地域を挙げて、新幹線を応援して、武雄市を応援しようと、本当に武雄市を魅力ある市にしたいと。
そういう気持ちでいろんな活動を地域共々、頑張っているような次第でございます。
次は、全く違うんですけれども、地域包括ケアシステム拠点整備事業についてですけれども、現状についてということで、市内における拠点整備の状況をお聞きしたいと思っているんですけれども、高齢者の自立生活の支援を目的にされていると思います。
各町の第２層協議体（？）で、介護予防生活支援について、協議を、いろんな協議をされておられます。
また、活動の拠点として、拠点整備が各地域で行われていると思いますので、その各地域の拠点の整備状況をお聞かせ願います。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／現在、市内６町におきまして、地域包括ケアシステム拠点整備事業補助金を活用いたしまして、空き家の改修、プレハブの設置等がなされております。
その拠点におきましては、活動等に関する情報共有、話合いの場、気軽に行ける居場所として活用されており、またこの拠点を通じて、自宅や商業施設までの移動支援、ごみ出しなどの日常生活における困り事支援、サロンや介護予防教室など、地域住民による支え合いの活動につなげていただいております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／各地域でいろんな努力をされておられると思います。
この橘町でも、先ほど牟田議員が言われました、本当に民生委員が走り回って、会議の中心となって、これ本当に頑張っておられますというか、本当にかわいそうなぐらいといいますか、本当に一生懸命やられています。
橘公民館の横に空き家がありましたので、この空き家を拠点としまして、会議を進めて、今

このオープンを、11 月にオープンをする予定です。
地域包括ケアシステムで、特に重要なのは、介護予防と生活支援と言われていますが、まだまだ知名度が高いとは言えないのが現状です。
知名度なんです。
知名度は高いと言われていない。
何やっているんだということで、会議もいつも出られます。
拠点について、存在と役割を知ってもらうことが大切なんですけれども、活動の担い手を確保するのに大変なことになっています。
大きな課題があります。
そこで、2040 年には超高齢化社会が想定されますので、地域全体で推進していくことが重要と考えておられますけれども、そこで、市の見解をお聞かせ願います。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／まず、地域包括システムにつきましては、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように地域で高齢者を支える仕組みであり、現在、既に各地域にある自然、資源、歴史文化、コミュニティー等を生かした活動、取組が実施をされており、それらを生かしながら、議員御指摘のとおり、地域全体で推進していくことが重要であると考えております。
市といたしましても、今後も引き続き、会議や話合いの場に参加し、情報交換、情報共有を行い、地域と連携した、さらにまた、その見える化に努めて、地域包括ケアを推進していきたいと考えております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／一番問題なのは、運営費の確保なんですけれども、亡くなられた松尾陽輔議員が６月に議会で質問をされておられます。
運営費はどうなっているんだということで、市長はこう答えられました。
今後、自分が住み慣れたまちで住み続けていく、安心して住み続けていくためにはやはり地域包括ケアという大きな非常に大切なことであると思いますということで、この活動は、今後進めていくためにも、介護保険事務所から広報されております介護保険、介護予防の事業の交付金などを活用しながら、運営費の支援の枠組みについて、今年中に策定したいと考えておりますという市長の答弁でございます。
拠点事業の補助金が３年間 400 万円がもらえるというか、事業を継続するために（？）、地域

の活性化のために、この 400 万円、運営費を３年間いただくというか、11 月にオープンするので、その後、今、電気とか水道、Ｗｉ－Ｆｉも入れたということで、現時点で年間やはり維持管理が 50 万くらいかかるんじゃないかなという査定をされておりますけれども､要するに、３年後、自主運営のめどが立たないと市の財政支援をはっきりとお示しいただければと思っております。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／市といたしましても、今後の運営費の確保が各町の懸案事項であるということについては、認識をいたしております。
拠点整備事業につきましては、整備が完了し、今年度で拠点整備の補助期間が終了する町もあります。
こういったことから、議員先ほど御指摘がありましたように、光熱水費や活動等に対する支援など、来年度からの新たな運営費支援制度について、今年度に策定(？)をしたいというふうに考えております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／ありがとうございます。
一応、予算計上してもらえるという理解でよろしいですか。
策定というか、補助金があるという理解で結構でしょうか。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／今、予算計上につきましては、先ほども言いましたように、拠点整備事業の補助制度の予算を計上しておりますけれども、来年度からはそれに補助期間が終了したような地区については、新たな活動経費の予算を計上したいというふうには考えております。

議長／３番　毛利議員

毛利議員／何回でも、補助金があるというか、予算をつくってもらえるというか、そういう理解をしております。
この、私、地域包括ケアシステムというのは、必要かどうかというのはまだ議論の段階ではないんですけれども、橘町といいますか、地元、地域で言えば、現時点で拠点をつくってグ

ラウンドゴルフもやっておられます。
３か所くらい地域でやっております。
それとあと、麻雀クラブをつくって活動をされています。
もう拠点があります。
それで、また新しく拠点をつくる、その拠点に行くにはどうすればいいのか、遠いので、それも大変だという話もあります。
車で行くのも遠いし、もう車の運転できない。
地域の方とグラウンドゴルフをやって、麻雀やったら楽しいよみたいな話も聞きます。
そういうのを市として、やはり現場の意見を聞きながら、やはり成功するようにといいますか、地域包括ケアの、本当に、再確認という言い方は悪いんですけども、やっぱり、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムをつくってほしいと思っております。
以上ですね、３番　毛利清彦の９月の一般質問を終わりますけども、再度確認をしますけれども、やはり、47 都道府県の中のブービー賞を取った佐賀県、これは恥ですので、やはり地域をあげて、村おこし、まちおこし、そして魅力ある武雄市を皆さんで、力を合わせて、心を一つにして、盛り上げたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。
これで終わります。

議長／以上で、３番　毛利議員の質問を終了させていただきます。
ここで、モニター準備のため、５分程度休憩いたします。

＊　休憩中　＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。
一般質問を続けます。
次に、８番豊村議員の質問を許可いたします。
御登壇を願います。
８番　豊村議員

豊村議員／議長より登壇の許可をいただきましたので、８番豊村貴司、一般質問を始めます。
執行部におかれましては、テレビの向こうで見られている皆さんにも伝わるよう、簡潔で分かりやすい答弁をよろしくお願いいたします。
９月 23 日、あと２週間もすれば、いよいよ西九州新幹線が開業します。
これまで、西九州のハブ都市を目指すとし取り組んできている武雄市、これからは実際にそのことを形にしていかなければなりません。

開業後に、どのように武雄市が展開していくのか、このことは武雄市内の住民の皆さんだけでなく、周辺自治体や民間企業など、多くの方が注目するところであります。
だからこそ、武雄市がどのようになり、どう見据えることができるか、このことが重要であり、そのために私が必要と思うのは、刷新です。
佐賀のゆうとして、西九州のゆうとして、武雄市が新たな歴史を築いていくためには、武雄市の雰囲気を刷新しなければならない、そう強く思います。
もちろん刷新するためには課題に対し、きちんと区切りをつけること、こうしたことも必要です。
安倍元総理が、銃弾に倒れたことに対し、警察庁長官や奈良県警の本部長が辞職し、管理者としての責任をもってけじめをつけました。
武雄市としても、ふるさと納税問題について、これまで市長、副市長、担当部長の責任について議会で取り上げてきました。
けじめをつけるべきところは、きちんと組織の管理者として責任の姿を示し、新たな武雄市として進んでいくために、刷新、その意識を持って取り組んでいくことを強く望みます。
最初、先日、ニュースに上がっていた記事について、今日、牟田議員も述べられておりました。
私も驚きのことがありました。
サガテレビの解説主幹がはがくれ時評として述べているもので、そのタイトルが悲運の西九州新幹線、開業日は葬式の日とあり、記事の締めくくりに、新幹線開業日は、消えゆく在来線沿線の住民にとっては葬式の日とされる、悲運であると書かれています。
筆者の意図があったにせよ、この見せ方は開業を葬式と結びつけているものであり、私はこの記事を見たときに、怒りしかありませんでした。
このように述べるサガテレビの解説主幹、そしてこの記事を許したサガテレビに対し、武雄市として強く抗議をするべきと思います。
加えて言えば、そのような考えを持つ、佐賀テレビについて、新幹線開業の日に取材に来てもどのように報道するのか、心配であります。
改めて武雄市として強く抗議していただくよう求めます。
そこで、それでは最初の質問の項目に入ります。
まず、治水対策に入ります。
令和３年の水害から１年立ちました。
国や県、そして、流域自治体都市や、武雄市など、治水対策の事業に取り組まれていますが、現在の進捗状況について、その概要を答弁願います。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／モニターお願いします。
議員御質問の、治水対策事業の進捗状況でございますが、モニターにお示ししていますよう、国におきましては、大きく３つの事業を行っております。
特に、緊急河道掘削におきましては、ヨシの伐採がおおむね完了し、ヨシの生育抑制のためのカン水地（？）の整備が 10 月末の完成を目指して進められております。
次に県のおかれましては大きく５つの事業が行われております。
特に焼米ため池の貯留機能強化につきましては、放流ゲートなどを新設し、令和５年度からの令和５年度からの稼働を目指し進められています。
また、広田川の排水機場新設（？）つきましても、６年度からの稼働を目指し、進められています。
最後に、武雄市におきましては、短期的取組といたしまして、大きく４つの事業を行っております。
田んぼダムの整備、既存ダム、ため池の事前放流につきましては、地元関係者の御理解、御協力がなければできない事業でございますので、今後もさらなる関係者の御理解、御協力を得られるよう、関係各課と連携しながら事業の進捗に努めてまいります。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／今、各進捗状況を述べていただきました。
武雄市も見える化、そして、考える化ということも治水対策としてもいわれていますので、皆さんにもしっかり理解していただきながら共に、全体として治水対策、動けるようにと思います。
そして、先ほどもありましたけれども、武雄市として取り組んでいる事業の一つに、田んぼダムというのがありました。
部長も言われましたように、多くの農業者の御理解、御協力があっての事業であります。
そこで最初に伺いますが、この田んぼダム事業において、堰板の設置状況と、どのように武雄市として確認をされているか、答弁をお願いいたします。

議長／黒尾営業部理事

黒尾営業部理事／設置状況につきましては、六角川上流域の東川登町、内田、宇土手、袴野、西川登町におきましては、神六、庭木、高瀬、朝日町におきましては、黒尾、繁昌、川上の全 164 ヘクタールで取り組んでいただいているところでございます。

地区への堰板配布枚数につきましては、1,690 枚、市が 1,130 枚、県が 560 枚の配布を行っております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／先ほど、堰板を設置されているということがありました。
その堰板についてもスライドにちょっと出しますけれども、流出量、溜まったものを出す、その量を調整する、流出量調整器具と言われますけれども、スライドにありますように、機能分離型、機能一体型といったふうなところがあります。
いろんな文献を調べると、６種類ぐらいのパターンに分けて調査されたのもありました。
この器具についてなんですが、武雄市は機能一体型を設置されています。
以前、この田んぼダムについての講演があったときに、そのとき専門家の方も言われていましたが、機能分離型がいいということを言われていました。
そのとき、えっと思ったんですが、その後、私もいろいろ調べてみました。
いろんな文献も見て、やっぱり機能一体型、機能分離型での比較とか、そういったのもありました。
例えばこれは今年の４月、令和４年４月に農林水産省の農村振興局整備部が出している田んぼダムの手引きという資料ですけれども､その堰板の効果の違いによる効果というところで、ありました。
上からまず青のほうが機能一体型と機能分離型。
青のほうが機能一体型、武雄市がしてる分、赤のほうが機能分離型と言われ分です。
上からいったら 10 年に１回程度の雨が降ったとき、このときは、両方あまり変わらないぐらい 78%、機能分離型で 74%ほどの流出の抑制効果があると。
真ん中の 50 年に一回程度の雨が降ったときは、機能一体型は約 36%の抑制効果。
それに対して、機能分離型は約 85%の抑制効果があると。
100 年に一回程度の大雨、こういったときには機能一体型は約 20%の抑制効果。
それに対して、機能分離型は約 86%の抑制効果があるということが手引きにも示されていますし、私もいろんな文献を見たときに、やはりより多くの雨が、大雨となったときは機能分離型のほうが効果があると。
ただし、これも量を超すと、あぜを超えてしまうので、もうそうなると効果としてはないというふうなとこもあります。
先ほども、ここで質問なんですが、この機能一体型として設置されていること、この田んぼダム事業については、市もですけれども、県も絡んでいると思います。
この機能一体型にされたのは、市の判断なのか、県の判断なのか、答弁お願いいたします。

議長／黒尾営業部理事

黒尾営業部理事／県の判断をもとに、機能一体型に取り組んでおります。
機能一体型は、畦畔の整備された圃場において、水田排水口の堰板を差し替えるだけで、田んぼダムを実施でき、経費を抑え、すぐに取り組むことができるから、この方法で実施を行っているところでございます。
田んぼダムを実施している県内９市町では、日常の水管理の機能と、大雨時に水の放出量を調整する機能をあわせ持つ機能一体型Ｖ字カットの入った堰板を設置している状況でございます。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／機能分離型と機能一体型では雨の降り方による雨水の貯留の違いや排水時間の違い、専用器具の使用の必要性があるかないかの違い。
また、営農への影響の違いなどが言われます。
営農への影響が少ないのが機能分離型のほうということも言われています。
先ほど県の判断というふうなことで言われたですかね。
機能分離型のほうは、板をはめるだけじゃない部分、コストはその分上がる部分もあるかもしれませんけれども、やはりせっかく取り組む治水対策です。
こういうふうにいろんな文献でも、明らかに機能分離型のほうがいいと言われていますし、専門家の方も講演でも言われていますし、私は、果たして機能一体型のままでいいのかなというふうに、せっかく取り組むんだったら、より有効と分かっているほうで取り組むべきじゃないかなというふうに思います。
今後、このまま機能一体型のままでいくのか。
この辺について答弁お願いいたします。

議長／黒尾営業部理事

黒尾営業部理事／今回が田んぼダムへの初めての取組でございます。
今年度同様、次年度についても現在のＶ字カットの入った堰板、機能一体型での実施を考えております。
佐賀県では、田んぼダム実施に係る効果検証を佐賀大学に依頼しておりますので、その結果を見ながら、武雄市におきましても、今後の調査研究を続けてまいりたいと思っております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／すみません、８番です。
全て８番に戻させていただきたいと思います。
小松市長、この点について、市長の考えを答弁願います。

議長／小松市長

小松市長／今回、多くの皆様の御協力で、田んぼダムをスタートさせることができました。
まずは、やっぱりできるところ、早くやるということで、県の判断でもありましたけれども、機能一体型でというところでありました。
今後については、私たちとしては、一番最優先でやるべきことは、今回参加いただいた、協力いただいたエリア外でも、さらにその協力エリアを増やしていくというところがまず最優先だと思っています。
ただ、やはり効果は上がったほうがいいと思いますので、さっき県が、佐賀大学に調査を依頼していると聞いていますので、その結果をしっかり見て、今後、市としても、とにかく治水効果がどう上がればいいのかというのを総合的に考えて取り組んでいきたいと思います。
なので、機能一体型で、もうずっと永久にいくということでは、そういうふうには考えておりません。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／率直に言えば、やっぱり何でこっちのほうが効果があると分かっとうとに、何でこっちにせんとって思う素朴な疑問だと思います。
コストに関しては、やはり治水対策の部分でもありますので、何かしらひもづけできる部分もあるんじゃないかなというふうに思います。
ぜひともより効果のあるやり方でというふうに思います。
次にですけれども、３月議会、そして、６月議会で開発と治水の関係について質問しました。
ちょっとスライドに出しているのは、令和元年の際と、令和３年のときの豪雨災害のときの浸水範囲ですね。
一番下の青が横に大きくあるのが、六角川流域全体としての浸水範囲。
中段にあるのが、武雄市としての浸水範囲。
これぐらいありましたと。

令和元年では1,920ヘクタール、令和３年度では1,730。
先ほど言いました田んぼダムですね。
田んぼダムの協力（？）範囲は164ですね。
数字だけではちょっと言えない部分があります、確かに。
上流で少し水の流出、川に、本川に流れる分を抑えることによって、河口、下流域への影響を抑えていくというふうなとこがあるんで、単純に数字だけでは言えない部分もあるかと思うんですが、やはりこうやって見たときに、田んぼダムだけではもちろん、どうにも追いつかない部分があるわけですね。
冒頭、部長からも言っていただきましたように、様々な治水事業、そういったことをしっかり進めていただくということもありますし、あわせて、先ほども言いました、開発と治水という部分について、武雄市も新幹線開業があって、いろんな開発も進んでいくことが想定されると思います。
実際に、田んぼが住宅地にどんどん変わっていっているという現状もあります。
そうなると、今まで雨水をためていたところが一気に水路に流れて、それが一気に川のほうに行き、水位に関係してしまうと。
そういったことがあるから、やはり開発と治水という部分を関連して考えるということをしなければいけないというふうなことを言いました。
これまでの答弁では、専門家の意見を聞いていくということはありましたが、この開発と治水ということを計画的にしっかりと進めていくためには、特定都市河川の指定ということ、このことも検討するべきところと考えます。
この点については、2月24日に開かれた六角川水系流域治水協議会でも言葉として出ております。
また、新六角川水系流域治水プロジェクトのパンフレット、水色のパンフレットですね。
その中にも対策の推進に当たっては、特定都市河川浸水被害対策法等も活用していきますと書かれていました。
この特定都市河川の指定の場合、雨水の貯留、浸透施設の補助制度もあったりします。
こうして、都市部について、そうした雨水をためる施設の整備、計画も行うなどしながら、全体として、やはり武雄市としての、武雄市だからこその治水対策を行っていかなければならないと思います。
そこで質問ですが、武雄市として、この特定都市河川の指定について、どのように検討をしているか、また、六角川流域治水協議会の状況についても併せて答弁をお願いいたします。

議長／小松市長

小松市長／おっしゃるとおり、住宅ができる、そうすると、例えば住宅ができて、そこに降っていた雨は、必ずその分は低平地に行ってしまうと。
水が来ることから、命と暮らしを守らなければならない。
一方で、じゃあ開発をゼロにするかと、そういうわけにもいかないということで、規制と開発のバランスをどう取ったまちづくりをしていくかというのが、まさに水と共生するまちづくりだと思っています。
この特定都市河川って、非常に言葉が難しくて、何のこっちゃっというふうに私も思ったんですけど、これは結局、六角川を、こういうふうに河川を指定することで、そのエリアの開発、一定以上の開発には少し規制はかかってくると。
ただし、いろんな河川対策、治水対策に、国の直轄であり（？）、国の補助で大規模な治水対策ができるようになる。
これは治水のスピードアップが可能になると。
じゃあ規制がかかった企業はどうなのかというとこも、国から補助が出されるという仕組みだというふうに理解をしています。
やっぱり、六角川流域治水協議会でも話をしましたけれども、そこでは、それぞれ地域の事情があるので柔軟に検討していきましょうというところまで確認できたということですけれども、やはり武雄市としては、これだけ２回、災害がありまして、住民の命を守るということがやはり第一であるということなので、この特定都市河川を国に指定してもらうというところを本市は目指すべきだと私は考えています。
今現在、その効果とかについては調査中ではありますけれども、やはりここは一刻も早く指定を目指して、今後、協議を続けていきたいと思っています。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／市長も今言われましたように、やはり武雄市だからこそ、この特定都市河川の分、ここを活用しながらでも、やはり計画的にまちのビジョンを、100 年後、200 年後、武雄市が安心できるまちであるために、そのためには計画性を持っていかないといけないと思いますので、しっかり検討を進めていただきたいと思います。
それでは、次の項目に行きます。
次は、新型コロナウイルス感染症対策についてです。
まず最初に、武雄市におけるワクチンの接種体制について、その概要を答弁お願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／現在のワクチン接種体制につきましては、医師会検診センターでの集団接種と、市内各医療機関での個別接種２（？）で実施をいたしております。
集団接種では、まだ未接種の方の一、二回目の初回接種をファイザー社で、５歳から 11 歳までの小児接種を小児用ワクチンで実施をいたしております。
個別接種では 12 歳以上の方の３回目接種、60 歳以上の方と基礎疾患の方の４回目接種、これにつきましては、ファイザー社とモデルナ社のワクチンを併用し、月ごとにどちらかのワクチンを指定した形で実施をいたしております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／今、集団と個別があって、個別のほうで、月ごとに接種するワクチンがあるというふうなことでありました。
そうした武雄市の体制については、どういった理由で決まったのか、答弁をお願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／先ほども、ちょっと答弁いたしましたけれども、現在使用しているワクチンは、ファイザー社、モデルナ社、小児用の３種類のワクチンを使用しております。
それぞれのワクチンについては、接種量や希釈の方法が異なり、接種回数で接種量の違いもあり、異なるワクチンを同時期に扱うことでの接種ミスの防止を図るために、安全を第一に、医師会とも協議を行い、２種類のワクチンを併用する、医療機関における個別接種については、月ごとで指定した形での実施ということになっております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／安全、管理上のミスが起こらないように、安全対策のために武雄市が医師会と協議をして、そういうふうに決めたということですね。
実際に、私も住民の方から意見としてあったんですけど、自分で選べないのかという声もありました。
例えばほかの自治体では、自分が希望するワクチンを接種してくれるところを一生懸命探し回った、そういった声も聞いたりとかしたんですよね。
例えば、今後、国のほうでも新たなワクチンの承認が出てきたりすることもあると思います。

そうなったときには、じゃあ、今、月ごとで２つの種類の分がありますけど、３種類、４種類となったときに、４か月に１回のローテになるのかとか、そういったところもちょっと思ったりするんですけれども、先ほども言いました、希望するワクチンを選択できる、そういったことに関して、どのように考えるか、答弁をお願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／先ほど、議員からも御紹介ありましたように、今後、オミクロン対応のワクチンについても追加して使用される見込みであります。
このワクチンについても、接種量の異なる２社のワクチンが承認される予定ではないかというふうには思っております。
質問の件につきましては、今後も、これまでのとおり、配分量に合わせて、安全を第一に、医師会とも協議しながら、安全・安心に接種が受けられる体制づくりに努めていきたいと考えております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／そうですね、安全・安心につながるような体制でということで、先ほど言ったように、選択できるというのも、一つは受ける側の安心もあるんじゃないかというふうに思います。
今後のちょっと、状況もあるかもしれませんけれども、そこは、今後の動きも含めて、やはり、安心できれば接種率もまだまだ上げられる、そういうふうにもつながるんじゃないかなと思います。
接種率が上がれば、重症化の人の数の抑制になるかもしれないですし、感染拡大防止、さらに言えば、医療体制を守るということにもつながるかもしれません。
受ける側の心理というところも考慮いただいて、今後の検討につなげていただきたいと思います。
次に抗原検査について聞きます。
現在、コロナ禍において、社会においては、業務が継続できるようにと、私も介護施設でリハビリの勤務を今やっていますけれども､それはやっぱり当初と変わらないように､皆さん、ぴりぴりしながら業務しています。
やはり抗原検査キットというのも活用しながら、業務が滞らないように、サービスが低下しないようにというふうな形で行っています。
これは介護施設に限らず、保育所等でもそうですし、全体として、そのような社会状況、抗

原検査を活用しながら、経済活動ができるように、業務が滞らないようにというふうなことで動いています。
こうした社会状況を武雄市としてどのように捉えているか、まずこの点について答弁お願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／これまで、市内の高齢者、障害者施設や保育所等に対し、感染防止危機管理対策として、各施設で備蓄されている抗原検査キットの保有状況、そして、その購入可能な販売店の情報提供を図るとともに、備蓄が不足し、検査キットの入手に時間がかかるようなケースにおいては、緊急的に配布をしたケースもございますけれども、各施設については、従事される方の職員が、必要により抗原検査を実施されるなど、危機管理、感染防止の徹底がなされており、通常業務を中断することなく、業務継続に努めていただいていると認識をいたしており、あわせて、その対応に対し感謝するところでございます。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／市としても、各事業所の備蓄状況、どれぐらい持っているかというのは把握あったと思うんですけれども、多分、種類までは確認されていないと思います。
それはちょっと事前の聞き取りで聞いたところもあるんですけれども。
実際、事業所は、承認をされているキットと、そうじゃない研究用のキットというのがあるんですけれども、皆さんももう既に御存じと思うんですが、研究用のキットのほうが安価だったりするわけですね、安いわけですね。
事業者としては繰り返しどんどん使ったりする部分があるので、どうしてもそちらのコストを考えて、そちらのほうに動いているとこもあったりします、そういうのも聞いたりしてます。
先ほど部長から、ないところ、どうしても手に入らないところは配布をするというのがあるんですけれども、実際に職員さんの中での会話では、どこどこのお店に行ったらキットがあったよとか、そういう情報交換をお互いにしながら、自分たちでもキットを確保して、そして、仕事に行けるようにというふうなこと、また、仕事場の影響がないようにというふうなところで、一生懸命、そういうふうに守りながら動いているところがあるかと思います。
いかにしてキットも不足するというのも上がってますし、そういう中で、四苦八苦しながら取り組んでいるところがあります。
その中で、ちょっと次の質問なんですけれども、武雄市としては、昨年 5,000 本の抗原キッ

トを導入されました。
当初備蓄用というふうなことであったと思うんですが、改めて、この抗原5,000本、導入されました抗原検査キットの導入の狙いと、あと、どのように、どれくらい使ったか、その点について答弁願いますとともに、合わせてそれ以降追加された、抗原検査キットの追加時期と追加した狙いについても答弁お願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／抗原検査キットにつきましては、災害時における避難所をはじめ、市内各事業所におけるクラスターの発生など､非常時に迅速に検査をすることを目的に､コロナ感染、第５波到来前の昨年７月に5,000キットを購入、備蓄をいたしております。
これにつきましては、事業所等への交付事業、学校閉鎖時の北方小学校でのドライブスルー方式の検査の実施、医療機関や薬局、保育施設への無償提供、災害ボランティア等に活用をいたしております。
追加購入につきましても、災害対応用や市内での供給が困難な不測の事態に備え、今年３月下旬に2,000キット、８月下旬にさらに2,000キットを購入、追加をいたしております。
現在の使用状況につきましては、備蓄が不足し、調達が困難な施設に対し、緊急的な交付を行っているところでございます。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／今年３月下旬に、新たに2,000キットを導入とありました。
じゃあ、その前に5,000キット導入した分は全て使い切ったんでしょうか。
答弁をお願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／5,000キットを昨年購入をいたしておりますけれども、未使用分、452キットについては、廃棄処分をいたしております。
それまでの廃棄までの経過について御説明いたします。
今年１月以降、コロナ感染の第６波により、感染者が増加し、市内の複数の事業所においてもクラスターが発生しておりました。
保有していた検査キットの消費期限は４月20日までで、４月上旬から中旬までの間、連日して事業者からのキットの交付申請が続いていたため、その対応と、事業所等における新たな

クラスターの発生に備え、備蓄数の確保に努めており、期限切れに対する具体的な対応、検討までには至っておりませんでした。
結果として、消費期限５日前の 16 日からの交付申請がなく、20 日の期限の日が到来し、翌５月に 452 キットを廃棄処分いたしております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／452 キットを廃棄処分したということですね。
先ほど冒頭言いましたけれども、どこでも一生懸命、どこにあるかとか探しながら、それぞれ手に入れたりとか、購入したりしながら、業務が遂行できるようにとやっているわけですよね。
そういう中で、市が処分したというのは、私はちょっとこれは問題じゃないかなというふうに思います。
その後３月下旬に 2,000 キット導入されたとあるんですけれども、そこを、どうせまた追加するというのが見込みであるわけですから、そしたらそのことを見据えて、じゃあ、廃棄処分をしなくていいように、必要なところにさらにヒアリングするとか、積極的な配布をするとか、有効に使うことができなかったのかなというふうに思います。
例えばですけれども、先ほど答弁で薬局や医師会、保育関係等に配布があったということを聞きました。
これはちょっと私も聞いたんですけれども、会議等でそういう声があったと聞きました。
実際に、去年の令和３年３月には、観光協会関係から抗原検査キットの配布の要望書が出されていると思います。
同じく去年の４月には、理容組合もですね、床屋さんの組合、ここも抗原検査キットの配布について要望書を出されています。
こういったところに対しては、どのように対応をされたのか、答弁をお願いいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／議員御指摘のとおり、昨年３月５日に武雄市観光協会から、４月５日に佐賀県理容生活衛生同業組合武雄支部から事業支援として、抗原検査キット、備蓄の要望書の提出があっております。
これに対し、医師会からの検査に際しては、二次感染を防ぐための徹底した感染防止の装備の必要性、検体を正しく採取するための医療従事者が必要となるという助言内容とあわせ、今後は、検査の実施等について医師会と調整をしていくという旨の回答を行い、キット備蓄

の支援までには至っておりません。
その後、市民の安全安心を図るため医師会と協議を行い、昨年４月からＰＣＲ検査費用助成事業、５月からはＰＣＲ検査実施事業を開始し、ともに 10 月末までその事業を実施いたしております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／今言われた、去年、要望書があった段階で医師会との話の中で、適切に検査ができるか、医療従事者の確保等という話があったんですけれども、それは去年の段階ですよね、まだ抗原検査キットが今のように普及、当たり前のようにあるような状況じゃないときです。
それから今たっていて、先ほど言われたように、いろんなところに配布されたわけですよね。
声があったから、配布された。
やっぱりその辺、全体で考えたときに、ちょっと公平性が保ててないんじゃないかなというふうにも思います。
片方は要望書も出していたのに、そこには結局何もないわけですよね。
繰り返しになりますけれども、処分しないでいい方法がなぜ取れなかったのかというふうに思います。
実際に、武雄市としてコロナ対策の本部会議も行われていますけれども、こうした検査体制について、備蓄となったら防災のほうですよね。
配布事業となったら健康課だったりします。
実際に学校も文科省から来ているわけですよね。
そこもどういうふうに使ったかというのはあります。
ただ、それぞれがやはり分割しているようなところもあると思うんですよね。
総合（？）として、武雄市として、どうこの検査体制を取り組んでいくか、取りまとめていく、そこが十分に機能していなかったんじゃないかなというふうに思います。
市長、この点について答弁をお願いいたします。

議長／小松市長

小松市長／まずは、抗原検査キットについて、消費期限がきたということで、廃棄処分をしたと、うまく活用できなかったというところについては率直におわびを申し上げます。
こういうことが二度とないように。
ワクチンも同じです。
抗原検査キットもやはり同じですので、そこはしっかり意識を持って、活用していきたいと

思っています。
市としては、活用、今後の活用についてですけれども、やはり、災害時や、あるいは、感染がすごく拡大したような、緊急時のときに市内で確実に検査ができる態勢をつくる、そこに使うというのが私はまず一つあると思います。
そして、もう一つは、やはり感染拡大の防止と、経済社会活動の両立が今、求められている中で、社会維持活動、いわゆるエッセンシャルワーカーといわれる方が、さっきおっしゃったように本当に検査を頻繁にして、感染拡大を防止していただいています。
そういった社会生活の維持に関わるところに関して、確実に検査ができるような環境にも活用していくというのが、この２本が、私はまず大事だと思っています。
中の部分もそういう意識で、やはり目的をしっかり持って、横の連携をこれまで以上にとって、進めていきたいと思っています。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／繰り返しになりますけれども、どこでも一生懸命、検査体制が確保できるようにと、自分たちで動きながらされていますし、どの業種でもそうですけれども、例えば、介護関係で言っていますけれども、介護も通所、通いの部分があったりするんですけど、コロナ禍において、やはり通所を控える、また、濃厚接触で出てこれないとかということで、利用者が大幅に減少しているのが、どこでも現状としてあります。
施設によっては年間 1000 万ダウンしているというふうなところも聞いています。
そういう中でも検査体制を確保するためにという部分で、先ほど言ったように、コストの面からどうしても研究用を使われてしまっている、国のほうが研究用というのは判断にしないでくださいといといってあるんだけれども、そういうふうなところもあったりするわけですよね。
備蓄ということを念頭に、どうしても軸に置いてしまうと、そこを強く置いてしまうと、結局また同じように残ってしまう、廃棄処分になってしまうんじゃないかなと。
そういうふうに思います。
そうならないように、戦略を持って活用をしていただけるようにというふうに思います。
改めてもう一度、小松市長、この点について答弁をお願いいたします。

議長／小松市長

小松市長／先ほど、申し上げました、大きく２本の柱に基づいて、そこはしっかりと庁内、連携をして、とにかく目的のためにそこは全庁でどう取り組んでいくかと、そういう考えで、

今後、対策本部会議はじめ、進めてまいりたいと考えております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／もちろん、武雄市としても市民の住民の皆さんの命を守るためにと、ワクチン接種に関しても、関係の職員の皆さん、そして各部の職員の皆さんも動かれています。
そこで先ほど言われたように、横の連携というのをしっかり取りながら、武雄市として安心・安全な形でいけるように引っ張っていただきたいと思います。
それでは最後の項目です。
まちづくり・地方創生臨時交付金の活用についてということで、入ります。
スライドに出しましたけれども、私も繰り返し一般質問をしてきました。
新幹線開業というのが控える中で、例えば、旧市役所跡地、駐車場になっているところ、それとか、松原の交差点のところにあるまちなか広場、さぎの森、また、高架下とか、そういったところもあります。
前回、いつだったですかね、前回６月議会で、私はここの活用について、もういい加減方向性を示さないといけないんじゃないですかということを質問したときに、庭木部長から、方向性については早ければ夏にでも出したいというふうに考えていますと答弁がありました。
もう夏から秋に変わろうとしています。
どのように方向性が決まったでしょうか、答弁をお願いいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／旧庁舎跡地などの公共空間活用につきましては、これまでにまちなか公共空間デザイン調査研究業務、また、武雄将来まちなかビジョン(？)などの業務を行いまして、まちなか空間をどうするべきかを探るため、実証実験やヒアリングに取り組んでおり、一体的な活用が重要であるとの提案をなされております。
今後の方向性といたしましては、旧庁舎跡地、高架下、中央公園、まちなか広場などの公共空間を一体的に活用し、様々な機能を混在させた、いわゆるミクスドユース型として、市民と来訪者をつなぐ拠点を民間活力の活用によって整備したいと考えております。
今年度は、関係団体への意見聴取を行うための検討会や、民間事業者の意見や新たな提案の把握などを行う市場調査を実施いたしまして、令和５年度には整備方針を決定し、開発に着手したいと考えております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／ということは、現段階では方向性は決まっていないということですね。
言われましたけれども、実証実験とか、調査とか、今までもさんざんされているわけですよね。
ここは市として、やはりもう判断して、方向性を出してくべきじゃないかなというふうに思います。
もう新幹線は、開業します。
先ほど言いました、冒頭で言いました、私言いました、刷新です。
武雄市が、新幹線開業も含めて、こう変わったんだというのを見せていかなければいけないですよね。
一日でも早く方向性を示さないと、民間企業は、武雄がどう動こうとしているのか、それによってどう投資をしようかと考えているわけです。
投資も判断できないような状況では、武雄市は活性化していかないわけですよね。
一日も早く方向性を示していただきたいと思います。
小松市長の答弁をお願いします。

議長／小松市長

小松市長／今、駅前整備を進めていますけれども、その次の、いわば第２期として、ここを整備する必要があるということであります。
ここの方向性については、先ほどもちょっと触れましたけれども、いわゆる温泉、駅、市役所、そして、文化ゾーンを考えた上で、そのちょうど真ん中にあるということで、いわば、ここが、鉄道の方ではなくて、車で来られる方もいらっしゃいますので、車で来られたときに、いわば、心臓のポンプのようなイメージだと思います。
ここに来られて、ここから回遊が始まるということで、いわば、回遊の拠点の場所としていきたいと、先ほども話はありました。
ここについて今後の作業ですけれども、とにかく、今年度、可能性の調査をできるだけ早く進めてですね、整備方針、そして、開発着手というところをとにかく一日も早く進めていきたいと思っています。
完成については、例えば、大村とかも２年後、長崎も３年後とかありますけれども、恐らく市民の皆さんも求められているのは、すぐ完成するとは、それは思っていないと。
ただ、いつどうなるのかというところを示してくれということだと思います。
そこについてはとにかく作業を急いで進めていきたいと思っています。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／私がリーダーに求めるのは、そこはリーダーとして引っ張っていただきたい、そう思います。
もう一点なんですけれども、先ほども言いました、さぎの森のところ、ここも前に質問しましたけれども、これは令和４年度の期間は用途区域関係での、動かせないところだったと思います。
前質問したときも、じゃあ令和５年度になってから協議をするんじゃなくて、今の段階からどう活用できるかと、もう協議は今の段階では始めていていいんじゃないでしょうかということを言いました。
ここについてどのように協議されているか、答弁をお願いいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／さぎの森につきましても、先ほど申しましたとおり、一体的な部分で(？)今後検討してまいりたいと＊＊＊。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／私、また、次質問します。
今確約します。
次も同じような答弁じゃあ、市長、年末、市長選ですよね。
リーダーがどうあるべきかって、求められますよ。
私はしっかりリーダーとして引っ張っていただきたいというふうに思います。
次は、デジタルの活用について質問します。
６月議会でもデジタル化について質問しました。
市長からは､デジタル化による社会課題の解決だけではなく､地域のデジタル雇用の創出と、それが移住、定住にもつながってくると答弁ありました。
その中で、社会課題の解決についてという部分で伺いますが、社会課題とデジタル化というのを重ねて考える場合に、やっぱり職員さんも一人一人、捉え方、考え方、視点も違ったりすると思います。
実際に武雄市として、このデジタル化に関する社会問題の解決という部分に関して、どのような点をポイントとして考えているのか、答弁をお願いいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／現在、地域課題の掘り起こしと、その解決にデジタル技術を生かすことができるかにつきまして、連携協定を結んでおりますソフトウェア協会をはじめ、その他民間事業者とも幅広く議論を行っております。
地域の課題は、地域からの声を聞くことが大事なポイントだと考えております。
そのことを踏まえ、10 月に、市内で活用されているまちづくり団体の方々を交えたディスカッションを計画しております。
地域の声から新たな課題が浮かび上がることも予想しており、そういった波及効果（？）も期待しております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／このデジタル化といったときに、どうしても、いや高齢者はなかなか、そういった部分には慣れていなくてというふうなところがあると思います。
これは専門家から言わせると、そうした不便を感じている方にこそ、デジタル化を活用する、そういう考えでいく。
そのことが大事であるということがありました。
そういったところはポイントとして捉えていただきたいと思いますし、また、その専門家の方の講演を聞いて、意見交換もちょっとしたんですけれども、どうやって進めていくか、デジタル化の推進。
もちろん庁内として、市役所としての業務効率化という部分、その側面があります。
それと別で、また市民サービス向けにというところがありますが、どういうふうに進めていくかとなったときに、先ほど言いましたように、それぞれが捉え方、考え方が違う部分もあるので、やはりまず大事なのは研修であるということでした。
私も市の職員さんの職員研修のこれまでの項目を見せていただきました。
本当、いろんな部分で研修されています。
このデジタル化関係に関しても、研修をされている部分があるんですけれども、希望者が研修をされたりというところはあります。
やはり全体として、研修、理解するために研修を受けるというのはあるんですが、専門家の方が言われていたのはまずは、管理職、首長さんがもちろんしっかり理解していただく。
そして、部課長さんたち、ここ、各部の管理者の人たち、この方たちにもまず理解していただくということがまず大事であるということがありました。
それから全職員にという流れが専門家の意見としてありました。

実際に、日本リスキリングコンソーシアムや、グローウィズグーグルなどで学ぶということもできます。
実際に部課長さんたちに対し、デジタル化についての研究が行われたことはあるのでしょうか。

議長／まもなく正午となりますが、一般質問を続けます。

豊村議員／また、されていなかったら、研修を行ってはどうでしょうか。
答弁をお願いいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／部課長を対象とした研修会は行っておりません。
しかしながら、地域課題の掘り起こしや、業務遂行の中で生じる課題につきましては、全ての部局において把握していくことが重要だと考えております。
部課長のほうから職員研修を重ねながら、理解を深めてまいりたいと存じます。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／部課長ほか進めていきたいということで、されると思います。
今後されたかどうかというのも確認していきます。
というのも、デジタル化というのは当たり前のように今の世の中あるわけですよね。
市役所においても、そこはもう当たり前のように、もちろんなってくる部分があるはずです。
次にですけれども、そのデジタル化と移住・定住ということを考えたときに、それぞれ自治体、今日も毛利議員のほうから人口の増減のことがありましたけれども、人口減少にどう立ち向かうか、そのことは最も重要なところであります。
その対策の１つとして、移住・定住というところもあります。
この移住・定住というのもですね、やはりデジタルの活用というのは十分考えられるところと思います。
実際に今、皆さん、インターネットでいろんなことを調べたりするときに、自然と自分が好みそうな情報が勝手に入ってきたりということ、そういったこともありますよね。
そういうのは、情報を流す側が分析をしてデータを出してというのもあります。
実際に自治体で言えば、佐賀市がプロモーションの動画を作成して、それぞれのアクセスの分析をやった結果、想定以上の視聴数に伸びたというふうなことも、データとして挙がって

います。
ほかにもいろんな自治体でそういったことがあっています。
今回の項目で、地方創生臨時交付金の活用というふうなことを言いましたけれども、武雄市の活用の部分を見たときに、市内事業所への支援、これはもちろん必要なところではあります。
市内地域経済の活性というところもあります。
思ったのは、先ほどの移住・定住というのを考えたときに、外部からいかに市内のほうに引き寄せるか。
移住ということもありますし、外部の人に、武雄の、例えばふるさと納税であるとか、特産品とかに目を向けていただく。
そういった形にしていく。
より狙ったターゲットにダイレクトに情報がいきやすいようにするため、そのためには、デジタルの活用というのが絶対的に今必要だと思います。
先ほども言いましたけれども、そういった部分は、コロナの交付金、地方創生臨時交付金も対象になってくるんではないかなと思います。
テレワークとかもありましたし、実際、こういったことに分析とか、デジタル化の分析とかを行っていくには、民間の力がやはり必要になってきます。
必要になってきますというか、民間の力を活用したほうが、専門家でもありますので、いいと思います。
それのほうが効果もあると思います。
そうなった場合に、予算関係もあると思うんですけれども、それは先ほど言った交付金の活用、ここが当たるんじゃないかというのと、実際に移住につながれば、その人の住民税としての税収も上がりますし、市内での消費活動、そういったことによる経済効果というのもあるわけです。
ですから、十分にペイできてくると思うんですよね。
実際に、このデジタル化という部分で、移住・定住というところを結びつけて、武雄市としても後れを取らないで、取り組むべきというふうに思います。
この点について答弁をお願いいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／たけおポータルやふるさと納税サイトなどインターネット上において、武雄市のことをどういう興味を持って情報を得られておられるのか、やはりデジタルを活用し、情報収集、それから分析を行いまして、適切に情報発信を行ってまいりたいと存じます。

このことにより、先ほど申されました移住・定住の促進、それからふるさと納税における武雄の物産、物品の魅力をお伝えし、ひいては、武雄市内産業の活性化にもつながることが期待できると考えております。
なお、デジタル技術の推進等に当たりましては、趣旨や目的に合った補助金、交付金の活用を検討してまいります。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／分析等を行っていきたいというふうにありましたけれども、私は、先ほども言いましたように、そこは民間の専門に任せたほうが、より効果的にいけると思います。
そうしながら取り組んでいただきたいと思います。
小松市長、この点についてデジタルの活用等、移住という部分、民間の活用、そういった点について答弁をお願いいたします。

議長／小松市長

小松市長／デジタル化を進めるときに大事なポイントの一つは、民間同士の連携であったり、あとは官民の協働で取り組んでいくということだと思っています。
やはりデジタルを活用することで、より関心のある方に、適切に、効果的に、ターゲットマーケティングということで情報が届くとなると、政策の効果もより上がるというふうにも思います。
先ほどありましたけれども、様々な補助金も活用しながら、ぜひそういった面でのデジタル活用を進めていきたいと考えております。

議長／８番　豊村議員

豊村議員／もう当たり前のことだと思うんですよね。
これは別に、特別なことじゃないと思うんですよ。
こういったことに取り組むのは当たり前のことだと思います。
ぜひ進めていっていただきたいと思います。
そして、先ほど言葉として、私、年末に市長選もあるというふうなことを言いました。
小松市長が、今後、武雄市の活性のため、刷新に向けて動いていただく。
私は小松市長に期待をしています。
応援もしています。

だからこそより一丸となって頑張っていただきたいと思います。
もう時間となりましたので、私の質問を終わります。

議長／以上で、８番　豊村議員の質問を終了いたします。
ここで、議事の都合上、１時 20 分まで休憩いたします。

＊　休憩中　＊

議長／休憩前に引き続き会議を開きます。
一般質問を続けます。
次に、12 番　池田議員の質問を許可いたします。
御登壇を求めます。
12 番　池田議員

池田議員／皆さんこんにちは。
ただいま議長の許可をいただきましたので、12 番、立憲民主党、池田大生の一般質問を始めさせていただきます。
今議会に向けては思うところがたくさんあります。
いろんなことを乗り越えて、頑張ってまいりたいと思っております。
今日頑張ろうという思いで、いつものとおり、自分にはっぱをかけるつもりで、毎朝占いを見るわけなんですけれども、今日はテレビでは、口が軽くなり、周囲に迷惑をかけるということで、多くを語らずやっていきたいと思う中、佐賀新聞の占いでは、公平に扱ってもらい、自分に満足という、公平に扱ってもらうという占いが出ておりました。
どうか頑張って、質問をしていきたいと思います。
今回、大きく３点、まちづくりの全体像、武雄市の未来像について、そして、教育について、市政についてということで通告をさせていただいております。
まず初めに、９月 23 日に西九州新幹線が開業をいたします。
これまで関係各位、一丸となってこの開業を迎えるわけでございます。
そして、この開業に向けた取組、そして、開業後、まちに来てもらうためのいろいろなソフト、ハード含めてですね、ことが考えられているようですけれども、やはり課題もたくさんある中、一過性に終わらない、そして、開業だけがゴールではないということも含めたところで、いろんな取組がされていると思います。
それを踏まえた上で、今日も出ました、12 月に市長選を迎えるわけですが、これまでも常々、私、武雄市には総合計画がない、長期ビジョンをしっかりと示していただきたいということ

を申し上げてまいりました。
それをつくる、つくらないは、今日は申し上げませんが、まちづくりの全体像がなかなか見えてこない。
武雄市をどういうふうに導いていこうと思われているのか。
この開業を迎える、この先ですね、武雄市のまちづくりをどう導いていかれるのか、市長にお尋ねするのと同時に、いろんな施策の中に、移住・定住、いろんな策があります。
人口増、人口を減らさないため、人口減少を防ぐための策だと思いますけれども、これから先に育っていく子供たち。
この子供たちの教育の未来像についても教育長に併せてお尋ねをさせていただきます。

議長／小松市長

小松市長／ほかのまちでは総合計画があるところも、市町もありまして、例えば、笑顔あふれる自然豊かなまちとか、そういうふうなものを目標に掲げている総合計画とかもあるんですけれども、おっしゃるとおり、武雄市には総合計画はありません。
その代わり、地方創生の総合戦略、いわゆるスター戦略というのがあります。
スター戦略を平成27年につくったときに、私自身の一番大事にしたことが、そこにも書いてあるんですけれども、市民一人一人の幸せを大事にするということです。
ここでのポイントは、一人一人をというところと、幸せというところが、特にポイントだと思います。
幸せって何なのかというときに、それを５つに要素を分けました。
経済的豊かさとか、生きがいとか交流、あとはつながり。
それらに資する施策をすれば、自然と幸せにもつながると。
その後、水害もありましたので、いわゆる安心・安全というところもそこに入ってくるというふうに思います。
こういった市民一人一人の幸せというところをとにかく目指そうということで、福祉のまちづくり、どんな環境や境遇であっても、自分らしく生きていけるようなまちであったり、水害がありましたので、その水害からの克服、治水対策というところもしっかりと進める、そういったことは、その方針に沿って進めています。
改めて考えると、やはり市民の皆さんが、一人一人が、やっぱりこのまちにずっと住み続けたいと、胸を張って言える誇りあるまち、西九州の拠点都市というのがやはりこのまちの目指す姿だと思っています。
まちは人によって成り立つ、そして、多様性があり、いろんな課題も増えている中で、そこを、誰かを取り残すのではなくて、一人一人に着目してまちづくりをやっていくというとこ

ろは、これからも進めていきたい。
先ほど新幹線後というふうに言われました。
新幹線でいつも言っていますけれども、例えば、通勤通学圏が大きく広がります。
今までは学校になるともう外に出て行ってしまった。
仕事が転勤になると外に住まなければならなかった人が、引き続きこの武雄に住み続けることが可能になる。
そしてそれをてこに、移住も促していく。
住んだ人が子育て、教育が充実している。
そしてまた、そこで子供が育って、これを機に仕事も増やしていきますので、しっかりと仕事もあるのでそこに残ると。
この好循環を私はつくっていくチャンスだと思っています。
市内全体のまちづくりでいうと、私は、あじさい型のまちづくりと、ここでも以前も言いましたけれども、９町それぞれが歴史、文化、特色を生かしてまちづくりを進めていくと、これが個人の幸せにも一番大きくつながってくると思います。
北方であればやはり、その強みはインターもありますし、水害を克服して、やはりあそこに、さらに、いろいろな事業者を集めていくというところはあるでしょう。
山内だと住環境の豊かさというところをもっと伸ばしていくとか、そういった９町の強みというのを伸ばしていく。
そして、それらをネットワークでつないでいく。
そういったまちづくりを目指していきたいと思っています。
新幹線開業は大きな飛躍のチャンスでもあります。
そういった持続可能なまちづくりにしっかりとつなげていけるように、様々な施策を展開していきたいと考えています。

議長／松尾教育長

松尾教育長／議員御指摘の今後の教育環境の方向性ということでございますが、武雄市は、官民一体型学校づくりの推進をはじめとして、他の市町に先行して、プログラミング教育、あるいはデジタル教科書を活用した教育の推進ということで、様々なＩＣＴ教育の推進に積極的に取り組んだところでございます。
今後も引き続き、ＩＣＴを活用した教育やＩＣＴ機器等の教育環境の整備、充実。
また全ての児童生徒の学習機会が境遇や環境に左右されることがないよう、ソフト、ハードの両面においてよりよい教育環境の充実に努めていきたいと考えているところでございます。

議長／12番　池田議員

池田議員／西九州の拠点都市として、武雄市の９町のよさを出しながらということですよね。
また、その特色を生かして、まちづくりに取り組んでいくと。
やはり、これをその仕事を増やしていく、そのための土台。
来ていただくための土台をつくるためには、やはりこれまで申し上げてきましたとおり、どこかでお示しをするものが必要ではないかなと私は思っております。
そのためにも力を合わせて、様々な意見を出しながら、一緒になってこの武雄の未来をつくっていくための議論をしっかりとやっていかせていただきたいと私も思っております。
そして、ＩＣＴを活用した環境の整備、そして、全ての子供たちが安心して学べる環境整備、これをしっかりとやっていかれるということをやりました。
ソフト、ハードのみならずですね。
しっかりと取り組んでいければと、予算もかかることもたくさんあるかと思いますけれども、しっかりそこも予算についても議論をさせていただきながら、進めていきたいと思います。
それでは、今回、教育について、市政について、通告をさせていただいております。
その中から、まず、教育についてでございます。
学校トイレの洋式化ということで、６月議会で通告をさせていただきました。
私の通告の行き違いがございまして、なかなか議論が深まらなかったこと。
このことに対してはおわびを申し上げます。
しかしながら、この学校施設のトイレ洋式化、これまでも松尾初秋副議長はじめ、たくさんの方が、豊村議員さんも、そして、多くの議員、先輩議員がこれまでも洋式化について、質問されてこられました。
そのことも６月、申し上げました。
改めて、この学校トイレの洋式化については、今議会で質問をさせていただきます。
今、教育の環境整備についてもしっかりやっていくということでございましたので、今現在、学校施設のトイレ洋式化ですね、洋式トイレの設置の状況、今後の計画については、６月議会では計画はございませんという答弁でしたが、あれから月日もたっております。
いろんな声を聞きながら、またアンケートを取られたりとか、そういうことをもしされているのであれば、ただ状況の確認だけで済んでいるのか、それとも、いろんな話を聞きながら、検討をする余地があったのかどうか、そこまで含めて、設置の状況と今後の計画について、改めてお尋ねをいたします。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／まず、学校の施設、洋式トイレの設置状況ですけれども、小中学校合わせて、これも６月の議会で、答弁しておりますけれども、平均として、52.2%、設置されております。
ただし、それぞれの学校の設置の洋式化率については、それぞれ児童生徒数の関係上もありますので、設置の状況は違っております。
それと、計画についてですけれども、６月の答弁、議会の答弁と同様に基本的に、大規模改造工事等に併せて、トイレの改修、洋式化も実施していくこととしており、現段階では、公共施設等個別施設計画、いわゆるアセットマネジメント計画に沿って改修していくこととしております。
それと６月議会以降、いろいろな学校関係との打合せ等ございましたので、そういう声、それから保護者等からの声等も聞くように対応していたところでございます。

議長／12 番　池田議員

池田議員／保護者の声を聞いて、対応をされたと、今申されました。
どのような対応をされたんですか。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／保護者の声を聞いて、対応をするという形よりも、保護者の中で、いろいろな御意見があるということで、認識をしているという状態でございます。
その中ではやはり、生活様式、特に各家庭においての生活様式等も変わってきている状態で、洋式化が進んでいるという状況のお話も聞かせていただいております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／今申されたとおり、近年、生活の様式も大分変化をしてくる中に、各家庭、商業施設においても洋式化がかなり進んできております。
設置の状況について、先ほど全体で 52.2%と申されましたよね。
基本的に、武雄市の計画の、学校整備の計画等の中で、学校施設再整備とか、学校の施設整備計画とかあって、こういうものの数値化というのを、こういうものというか、洋式化を進める上で、トイレの洋式化率が、どのくらいが平準化なのか、そういうものは検討されたことはありますか。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／トイレの洋式化の設置率、洋式化については、具体的に目標値というのは、設定しておりません。

議長／12 番　池田議員

池田議員／施設について、数値目標等は定めていないということですよね。
ただ、洋式化率ですね。
先ほど、生徒数も関係するということを言われましたけれども、大体どの程度が、どの程度というか、率でいえば、平準かなというふうに思われますか。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／まず、洋式化率の適正というのは、その学校の施設の児童生徒数も違いますので、一概に、学校間の洋式化率のみで判断はできないのかなと思っております。
特に洋式便器、１基当たりの児童の利用数、これも重要なポイントではないかと思っておりますので、その旨、考えての計画になると思っております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／児童生徒、１基当たりの利用者数ですね。
ただ、子供たちは、自由にトイレに行く時間があるのか、時間がですね。
例えば、小さなというか、小規模校なんかは、１つの、１学年にあるトイレの数が、その子供たちが、休み時間に用を足せるだけの数がそろえてあればいいでしょうが、集中しますよね、休み時間に。
私、集中すると思うんですよ。
中には我慢する子も出てくるんじゃないかなと。
だから、１基当たりの利用の数は、利用率は、生徒数とは、私、比例しないんじゃないかなと思うんですよね。
先ほど設置率のことを言われました。
52.2%、これが平均なんですよね。
この 50%に満ちていない学校、これがですね、武内小学校が 28%。
橘小学校、31.6%。

北方中学校は36.4%。
山内東小学校、19.4%。
山内西小学校、これは令和８年に大規模改造の予定があると聞き及んでおります。
ここで、26.5%。
多分、洋式化の要望は出てないですか、お尋ねします。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／先ほど申しましたように、学校関係と打合わせとかする中では、そういう要望等については出てきておりません。
ただし、保護者等の、そういう今の生活の様式等が変わってきている中で、やはりこういうふうな施設整備というのを、重大といいますか、その必要性というのは十分私のほうも認識をしているところでございます。

議長／12番　池田議員

池田議員／この洋式化の、私は一つの目的は、洋式化のトイレに変えるだけじゃなくて、トイレはもう、私が言わなくても分かっておられると思いますが、４Ｋと言われます。
４Ｋですね。
汚い、臭い、そして何やったですかね、暗い、怖いですね。
それを解消するためにも、先ほど言われました、学習環境の向上、これが一つあるんじゃないかなと思うんですよ。
使用するのは、保護者や教職員とか、学校関係者だけじゃないんですよ。
主に使うのは、子供たちなんですよ。
そこをしっかり考えていただければなという思いなんですけれども、先日、中止になったと思うんですが、山内西小学校で、国スポに向けた何かイベントをする予定でしたよね。
体育館も含めた設置率なのか、例えば、おもてなしの気持ちを後でちょっと出しますが。
おもてなしの部分をですね。
そういう気持ちを考えていくとすれば、学校関係者のみならず、この新幹線開業にあわせて、いろんなイベントを体育館等でやっていくわけなんですよね。
そのときに、利用されるときの環境を、ぜひ、そこも考えていただきたい。
そして、トイレ改修による教育環境向上の効果。
トイレを我慢することが減り、学習に集中できる、こういう集計結果も出ているわけなんですよ。

51％の子供たちが我慢をしていた。
たまに我慢していたが 51％ほどいるわけなんですよね。
その理由が、トイレが汚くて嫌、臭くて嫌、和式のトイレが嫌。
これが並んでいるわけなんですよ。
こういう利用する子供たちの声をぜひ聞いていただければなと思いながら、そして、乾式か湿式か、乾式のトイレですね。
床が乾式の場合、湿式の場合、いろんな活用の仕方があると思うんですよね。
トイレ改修については、トイレ改修は洋式化のみならず、そのトイレ全体の環境によって、子供たちの健康面、衛生面、生活面の改善ができると、私は調べていく中に、こういうアンケートの結果等があったと。
これは、前回の質問から、私調べて、今回も質問させていただいているわけなんですよ。
こういうことを考えて、大規模改修まで待つのか、それとも子供たちの声を聞いて、何か手立てを考えていくのか。
冒頭申し上げました、予算がかかることもあります。
しかしながら、整備をしていく、これ、私は大事なことだと思うんですが、それでも、私、生活や学習環境の向上、これを申し上げていただいたので、ぜひつなげていただければなという思いから質問をさせていただいていますが、いかがでしょうか。

議長／秋月こども教育部長

秋月こども教育部長／議員おっしゃるように、この学校施設を使っている主役はやはり子供たちになります。
私としても、今基本的に、先ほども申しましたように、大規模改造工事等に合わせてと申しましたけれども、現在の生活様式も多数変わってきている状況でございますので、今後、将来の児童生徒数も見据えながら､それぞれの学校規模に合わせたトイレの整備､洋式化など、環境改善を計画的に進めるように考えていきたいと考えております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／ここに出しているとおり、いろんな効果もない部分もあるかも分かりません。
しかし、ある部分もあるということも分かっています。
そして、学校施設、昨今、先ほど申し上げました、学校として、学習、そしてスポーツ、そしてイベントのみならず、避難所として活用されることも出てまいりました。
コロナ感染症対策の一環で距離を取る、そういうときに学校施設も、北方中学校なんかすぐ

ですもんね。
去年の水害のときも、避難所になりましたよね。
やはりそういう利用もされてくる、そういう中で環境をしっかり整備していただくことをお願い申し上げまして、次に、いろんな多様性のある使い方をされているということもしっかりと考えていただきたいと思います。
次に、市政についてお尋ねをいたします。
新幹線開業が、冒頭申し上げました、9月23日を迎えるわけですけれども、これまでも新幹線がゴールじゃないという、私もゴールと思っていません。
開業することによって、いろんな効果を生んでいくんだろうなと。
生まなくてはいけない。
そのつもりでおりますけれども、これまでは、目に見えるものは、この駅の周辺整備とか、周辺の再開発とかですね、再開発じゃない、どういう言い方したらいいのかな、再整備計画事業とか、そういうものの中でやってこられましたけれども、開業後、冒頭申したとおり、これが一過性のものに、開業で終わるんじゃなくて、その後、９町を拠点としてつないでいくための点と点を結んでいく、線にするための施策もぜひ必要だと思っております。
これまでは、駅周辺の計画等は、文書でありましたが、冒頭申し上げたとおり、長期計画がない中に、この駅周辺における、新幹線、駅周辺のみならず、開業後のまちづくりについてお尋ねをいたします。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／これまで、西九州新幹線開業を武雄市にとりまして最大のチャンスと捉え、駅周辺をはじめとした整備はもちろん、新幹線活用プロジェクトによる行動計画を策定いたしまして、＊＊＊強化、また、駅から市全域へのアクセス向上、各町観光資源の磨き上げなどを開業順に(？)取り組んできたところでございます。
先ほど議員が申されましたとおり、私どもも開業というのがゴールということではなく、引き続き市民の皆様、また、官と民が一体となって、一緒になって新幹線を活用したまちづくりにしっかりと取り組む必要があると考えております。
特に、交通の利便性を向上いたしまして、西九州のハブ都市として、さらなる移住・定住の促進、また、周辺市町との連携した、観光客の増加につながる施策を考えていきたいと考えております。

議長／12番　池田議員

池田議員／ちょっと、１点だけ確認させてください。
新幹線活用プロジェクト等と申されましたが、これ、新幹線活用の中に、在来線の部分は入っていますかね。
大丈夫です。
すみません、ちょっと多分、そこ、通告していなかったので、活用プロジェクトの中身について聞きますよということは言っていなかったので、多分、準備が間に合わなかったんだろうなと思います。
ちょっと時間の都合上、先に進めさせていただきます。
これまで、今後、この開業後、都市再生整備計画事業等、進んでいくと思いますけれども、川端通りの高架下の活用等、こういうものがどのような形で進んでいくのか、中には、社会資本整備計画とか、いろいろ、社会資本総合整備計画というものが武雄市で出されていると思うんですが、こういうものをどこかでお示しすることはされますか。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／現段階では、お示しする時期については明言できません。

議長／12 番　池田議員

池田議員／お示しすることができないというのは、見せられる、見せる段階にないということですかね。
それとも、私が確認した分ですね。
令和３年の１月時点で多分、佐賀県武雄市として出されているんじゃないのかなと思いますけれども、いかがですか。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／今後、計画を進めてまいりたいと。

議長／12 番　池田議員

池田議員／事業をするに当たって、その計画等は出されていると思うんですよね。
それを、我々も開業後にどんなまちづくりを示していただけるのかっていうものを、やはり今後、示してもらう必要がある。

これは計画として、交付税措置かなんかの中で出されているはずなんですよね。
都市再生整備計画の目標及び計画期間、課題等も書いてありますよ。
武雄温泉等周辺拠点エリアとの連携を図り、さらに拠点と結ぶ主要動線の快適性、回遊性を向上させることで、にぎわいの創出につなげることが必要であるとかですね、こういうものをしっかり明確に、今後、ぜひ出していただきたいと思います。
そして、開業するに当たって、先ほど、トイレの話をさせていただきましたけれども、武雄市の今現状、これ開業の分ですね、ちょっと、忘れておりました。
現在、武雄市における公衆トイレですね。
観光トイレと、公衆トイレがひとくくりになるのか、それが今現在、管理と整備状況がどうなっているのか。
また、トイレットペーパー等の設置状況についてどうなっているのか、お尋ねをいたします。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／武雄市の観光施設にあるトイレでございますが、合計で９か所ございます。
これにつきましては、現在、施設の管理者、また、清掃委託事業者によって、週に３回から、多いところで１日に２回、清掃を行っているところでございます。
先ほど御質問ありました、トイレットペーパーの交換でございますが、各清掃時に確認をし、随時補充を行っている状況です。

議長／12 番　池田議員

池田議員／委託事業者に委託しながら、清掃等も管理はしっかり行っている。
先ほども学校トイレの中で申し上げましたが、環境ですね、今後の環境整備も、新幹線開業に当たって、来てもらうための大事な一つの要素じゃないかなと思っております。
特に、全９か所、観光トイレとか、ここが公衆トイレ、ここは観光だとか、そのすみ分けというのは多分難しいのかなと。
ここは観光トイレですよというのはないのかなという気もしますけれども、そういうところの整備をしっかりとやっていくこと、そして、今インバウンドは少なくなっておりますけれども、外国人の方にアンケートを取った場合、やはり使い方が分からないとか、和式の場合ですよね。
そういうのもありますので、やはり、ここもしっかりと目を向けていただいて、観光誘致のための一躍になればいいなと、そしてまた、高齢者の方も、立ち上がるのが大変といって、膝が痛いとかですね、そういう方もいらっしゃいますので、ぜひこれをしっかりと見ていた

だいて。
トイレットペーパーについては、全箇所、設置はされているということでいいんですかね。

議長／古賀営業部長

古賀営業部長／トイレットペーパーにつきましては、先ほど言いました箇所につきまして、管理をしております。
随時交換等も行っております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／場所によってはですね、武雄市じゃないですよ、トイレのマナーの問題かも分かりませんが、トイレットペーパーが設置していないトイレとかも、たまに、よそに行ったときとか、結構あるもんですから、そのときは、私も経験がありますが、入ってまた出ていって、ちょっと、紙を取りに行ったりとか、あーと言いながらこう行くんですが、そういうことが、おもてなしの気持ちから、ぜひチェックをかけていただいて、大変なことかも分かりません。
しかし武雄に来てもらうための、おもてなしの気持ちをしっかりとつくっていただきたいということで、また、観光地においては、ネーミングライツを活用したり、今回この件について、お尋ねはいたしませんが、そういう研究もされているところもあります。
長野県においては、名前自体を、まごころトイレとか、そういう名前を使いながら、やはり、清潔に保つための意識を根づかせる、市民にも根づかせる、観光客の皆さんにも、そういう意識を持ってもらうための施策があります。
そういうものも、ぜひ我々も研究していきますので、また、和歌山県においては、おもてなしトイレ大作戦とか、トイレだけでも、学校トイレのみならず、トイレだけでもいろんな話を出させていただきましたけれども、ぜひ、おもてなしのトイレ、新幹線開業、やっていただきたいと思いながら、そして、在来線、既存駅のトイレですね、皆さんも御存じだと思います。
新幹線の駅舎は、確かに立派なものができました。
私、北方の駅のトイレ、２月でしたっけ、閉鎖したのが。
子供たち、通勤通学で使っている中に閉鎖をされ、そして、降りてこられる方が、近くにコンビニもない、そして、歩いて行ける公衆トイレもない、そういう状況の中、トイレが閉鎖をされました。
そして、この市役所に来る間、高橋駅のところを通ります。

コンパネが貼り付けてあります。
どうかなと、新幹線だけなのかなという思いを持ちながら、既存、在来線の、そして、三間坂、手前は永尾駅やったですね、永尾駅、三間坂、これから先、新幹線のみならず、しっかりと在来線も大事にしていかないと、武雄の通勤通学、先ほど言われました、定住・移住、これを増やしていくためには、新幹線の駅舎のみならず、既存駅にも目を向けていただきたい、そう思っておりますけれども、このトイレの現在の状況は、理解をされておられますか。お尋ねします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／議員、言われますとおり、高橋駅と北方駅につきましては、今年２月末をもって廃止になっております。
永尾駅につきましては、定かでございませんが、７年ほど前には既に廃止になったかというふうにお聞きしております。
この件につきまして、ＪＲのほうから昨年の 10 月に廃止の連絡が入っております。
市といたしましては、何度も継続をお願いするように回答を（？）してまいりましたけど、経費削減を理由に廃線が決定なされております。
また、廃止をする場合には、地域住民へ丁寧な説明をするようにＪＲのほうにも求めましたが、＊＊＊してみれば（？）、十分な対応をしていただいたとは言えない状況だと考えております。
駅トイレはＪＲの財産であるため、指定管理することは今のところは考えておりません。

議長／12 番　池田議員

池田議員／鳥栖でも同じような問題があって、無人駅等のトイレが閉鎖をされました。
住民要望があって、利用は再開されたんですが、先ほど部長が言われたように、ＪＲのほうから、私、一方的だと思うんですよね。
来年、新幹線を盛り上げてくれ、じゃあ、営利企業だというのは分かりますよ。
しかし、採算が取れない、経費がかかるところは何か廃止をしていく。
ここで最終的に、市が決断されたのは市で管理するということなんですけれども、私はまず、ＪＲさんのほうにしっかりとこの見直しをしていただいて、再開していただく、利用者の方が困っておられますよという協議をぜひしていただきたいと思いますが、これをしっかりとつなげていく。
何でもかんでもなくなったら市でやってくれと、これは私は違うかなと。

やはり先ほど言われました民間の施設の中の、トイレについてしっかりと利用者目線で考えていただきたいということをしっかりとお伝えしていただきたいんですが、この件についても、トイレの協議をぜひお願いいたします。
いかがでしょうか。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／先ほど申しましたとおり、所有がＪＲですので、まず管理は市のほうでは難しいと考えております。
その後、ＪＲのほうにはしっかりと要望のほうを、再開を目指していただきたいという要望を続けてまいりたいと考えております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／ゆうたぎん（？）＊＊＊という声ですが、言わなければ始まりません。
言わなければ始まりません。
声を出さないと動きません。
その思いで、なんでんかんでん市でしてくれよっていうと（？）もうちょっと、やはり協力しながら、知恵を出しながら、それも大事な一つだと思っております。
そして、内水被害対策、今日も出ましたけれども、これ繰り返し、繰り返し、何回も何回も言っていくことがこの内水被害対策、どうなっているのか、どうか、これを、豊村議員さんのほうもしっかりこう聞いておられましたので、この激特事業の概要も、もう毎回、毎回、出していきます。
そして、流域治水プロジェクトですね。
この中で、検討されてきたもの、この事業ですね、これ多分、施設案で終わっているはずなんですよ。
これが進んでいるのか、進んでいないのか。
そして、新たな治水対策。
田んぼダムで何万トンの水が放流できるのか、これで十分なのか、この点も含めて内水対策、どう進んでいるのか、再度、お尋ねいたします。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／現在進行している分につきましては、午前中、豊村議員のほうにもお答えし

た状況でございます。
先ほど池田議員から御紹介いただきました大規模施設の案につきましては、前回も答弁したとおり、まずは早期に効果が期待できる分につきまして、六角川流域治水プロジェクトの推進に全力で取り組むという認識がなされております。
それから、それ以降の今後につきましては、新・創造的復興プランのほうにも上げてます。
これにつきましても、短期、中期、長期で見ておりますので、今後、それについても少しずつでも前のほうに進めてまいりたいと考えております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／田んぼダムについては、豊村議員さんのほうでやり取りをされていたので繰り返しお尋ねはしませんが、この田んぼダムの効果として十分だとお考えですか。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／今年から試験的という言葉は語弊になるかも分かりませんが、徐々にしておりますが、さらに上流部においてもしっかりと田んぼダムの整備を進めていけば、それなりの効果は出るというふうに認識しております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／寸法があっていない、まずやってみないとですね、試験的にやっていくことで、それも分かってくるということですよね。
また、十分かということでお尋ねをしました。
これもやりながら確保している。
しかし、我々、北方の住民、高橋の住民、橘の住民、そして、浸水被害に遭われている佐賀県内の方も、ほかのところの方も、これでもか、これでもかという対策をしていただかないと、これで十分だろうじゃなくて、これでもか、これでもかということを持っていかないと不安なんですよ。
ポンプの運転調整を行いますというこの紙ですね。
これがなくなるまで、ぜひ対策をやっていただきたいという思いで、いろんなことが書かれています。
武雄市の中でも、田んぼダムの整備、これ先ほど言われた短期的なやつだと思うんですよね。
内水調整地や、雨水貯留施設等の整備、雨水貯留施設ですよ。

プロジェクトの中でやっていくと言われましたが、これ何か全然、短期でやれる事業なんかほとんどないんですよね。
何かタイムラインをつくってくれとか、自分たちでやることばっかりですもんね。
６月、言わせていただきました、必要な分だけのパイプラインですね。
この袋の部分を流すことができないかということで、私の考えをお伝えさせていただきました。
そして、武雄市、新・創造的復興プラン、この中に、水がめをつくる。
これも田んぼダムの一つかなと。
そして、貯水機能を備えた公共空間整備。
これも６月に言わせてもらいました。
家庭での雨水貯水槽の設置促進。
これですね、何か、今日は映像を出しませんけども、ポリタンク等を使ったいろんな、1,000リットルのタンクとか、農業で使うタンクですね、ああいうのもちょっと使えないかなとちょっと、ふと思ったもんですから、そういう研究をぜひ一緒にやらせていただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。

議長／庭木企画部長

庭木企画部長／今、議員からも御紹介いただきましたとおり、新・創造的復興プランの中に、水がめということで、家庭ごとでの貯水タンクを設置する、それ以外に私の中では、公共施設のほうにも設けるべきだとか、企業の皆様方にも御協力いただきたい。
それから、遊水公園。
いろんな方法がありますので、特に家庭の皆様方の貯水槽につきましては、今後、補助金等の制度設計も含めながら、しっかりと研究してまいりたいと思います。

議長／12番　池田議員

池田議員／ぜひ意見交換をしながら、アイデアを100あるうちの１個採用できれば、またさらに進んでいくかなと思いますので、ぜひお願いいたします。
そして、最後に、新型コロナウイルス感染症、この件についてお尋ねいたします。

全数把握については、今回、廃止というか、取りやめ、一時でしょうね（？）、取りやめになっていく中に、自宅療養者等の把握も難しくなってきたのかなと実際思うところなんですよ。
まず最初に、ＰＣＲ検査で、期間が違う場合があるんですよね。

判明するまでに。
この件について、どう違うのか。
ちょっと待ってくださいね。
ＰＣＲの検査の判定が出るまでですね。
当日に判明する場合と数日必要な場合があるんですけれども、なぜ同じＰＣＲ検査で違うのか、これについてお尋ねをいたします。

議長／松尾福祉部長

松尾福祉部長／議員御指摘のＰＣＲ検査の結果判定までの日数に違いがあるという理由につきましては、検査機関が使用している機種の違いによるものであり、従来は検査結果が翌日以降に、外部検査機関に検査を依頼される場合は１日から２日後に判明いたしておりましたが、現在は 30 分程度で検査結果が判明する場合がございます。

議長／12 番　池田議員

池田議員／２日程度かかる場合もあるし、30 分程度で判明する場合もあるということでいいですかね。
これがですね、今回、この療養証明書、これで相談がありました。
30 分程度で判明した場合、療養期間が 10 日間になるんですよ。
検査を受けて、自宅待機してくださいねと言われて２日後に判明したら、２日後から療養期間が始まって、同じ期間は、病院にかかった日から 10 日間なんですけど、保険を申請する場合に、療養開始日が２日ずれるわけなんですよ。
このことによって、２日間のタイムラグが発生します。
このことについては、非常にですね、何で同じ待機せんばとに、２日短こうなっとうやという声を、私聞いたんですけど、そういう声届いてますか。
やはり同じ声が聞こえ、これですね、私電話しました、国の制度に従ってやられてると。
市政事務に該当しないのかなというところなんですけれども、市に電話がかかってくるんですよね。
市に問い合わせが来るんですよね。
そのことによって、事務に手がかかっていく可能性があるから、私、これを質問させていただいているんですけれども、これですね、抗原検査キットで、陽性反応、すぐ出ますもんね、抗原検査キットですね。
あれでして、ＰＣＲで２日後に出たとします。

抗原検査で陽性が出ているから、発症日のこの 18 日から療養期間が始まって、10 日間になるんですよ。
しかし、コロナに感染していかれた方が、手をわずらわせてはいけないと、ＰＣＲ検査だけで大丈夫ですと言われたら、２日後に陽性反応が出た。
８日間の療養期間となる。
このタイムラグをしっかり是正をしていただく、そのこともしっかりとやっていかないと、保険を掛けている方ですね、個人としては、個人のセーフティーネットとして掛けているわけなんですよ。
個人事業者の方は休まないといけない。
その分の、自分が療養している分の補償がセーフティーネットの分をもらえない、その可能性もあるんですよね。
だから、これも含めてしっかり、これ新型コロナウイルス対策、これは政府の役割なんですよ。
これをしっかりやってこなかった、これまで向き合ってこなかったつけが、今出ているんじゃないかと思うんですよね。
地方自治体は一生懸命、事務だけ下りてきて、回されて、いろんなワクチン接種もやりますよ。
しかし、後手後手に回っている政府のこの新型コロナ対策に、ぜひ声を上げていただきたいと思いますが、市長ですね、ＧＭ21 の中でもそういう話、出ていると思うんですよ。
全数把握についてもこの間、多分、出たと思います。
医療機関の負担軽減、そういう声をぜひ、強く強く政府のほうに届けていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

議長／小松市長

小松市長／政府も、本当に、状況、状況に応じてやっていると思います。
この前の全数検査についての見直しについては､佐賀県が先行するということですけれども、市民の人からすると、結構、ころころ、ころころ、いろいろ変わるので、なかなか分かりにくいというところはあると思います。
やはり、市民の人、住民の人にとって、とにかく分かりやすく、明快な、説明ができるような仕組みというのは必要ですので、それは要望すべきところについては、県、もしくは県を通して国に要望してまいりたいと考えております。

議長／12 番　池田議員

池田議員／武雄市でも、佐賀県でも出されておりますが、武雄市でも独自にコロナ対策出しているんですよ。
事務も大変なんですよ。
政府は、政府にしっかりと、後手後手にならないよう、もう後手後手なんですよね、今までが。
それをしっかりぜひお伝えいただいて、いただくことをお願い申し上げて、池田大生の一般質問を終わらせていただきます。

議長／以上で 12 番池田議員の質問を終了させていただきます。

山口議員／議長、動議。

議長／ただいま、17 番山口議員から、動議の申し入れが出されました。
この動議に賛成の方、挙手をお願いいたします。

山口議員／まだ中身ば言うとらん。
ちょっと暫時休憩ばしてくれ。

議長／暫時休憩いたします。

＊　休憩中　＊

議長／再開いたします。
17 番　山口議員

山口議員／ただいま議長の許可をいただきましたので、動議を発議いたします。
賛同者は、私、山口昌宏、牟田議員、吉川議員、古川議員、豊村議員。
吉川議員は取り消します。
上田議員。
要件は満たしております。
先ほど牟田議員の質問の中で出たサガテレビの葬儀の日という件でございますけれども、これは市長だけではなく、議会としても抗議の議決を日程に追加を発議します。

議長の取り計らいをよろしくお願いします。

議長／ただいまの 17 番山口議員の動議につきましては、この後、散会後に議会運営委員会を開催して、日程等の協議をして対応させていただきたいと思います。
以上で本日の日程は終了いたしました。
本日はこれにて散会いたします。